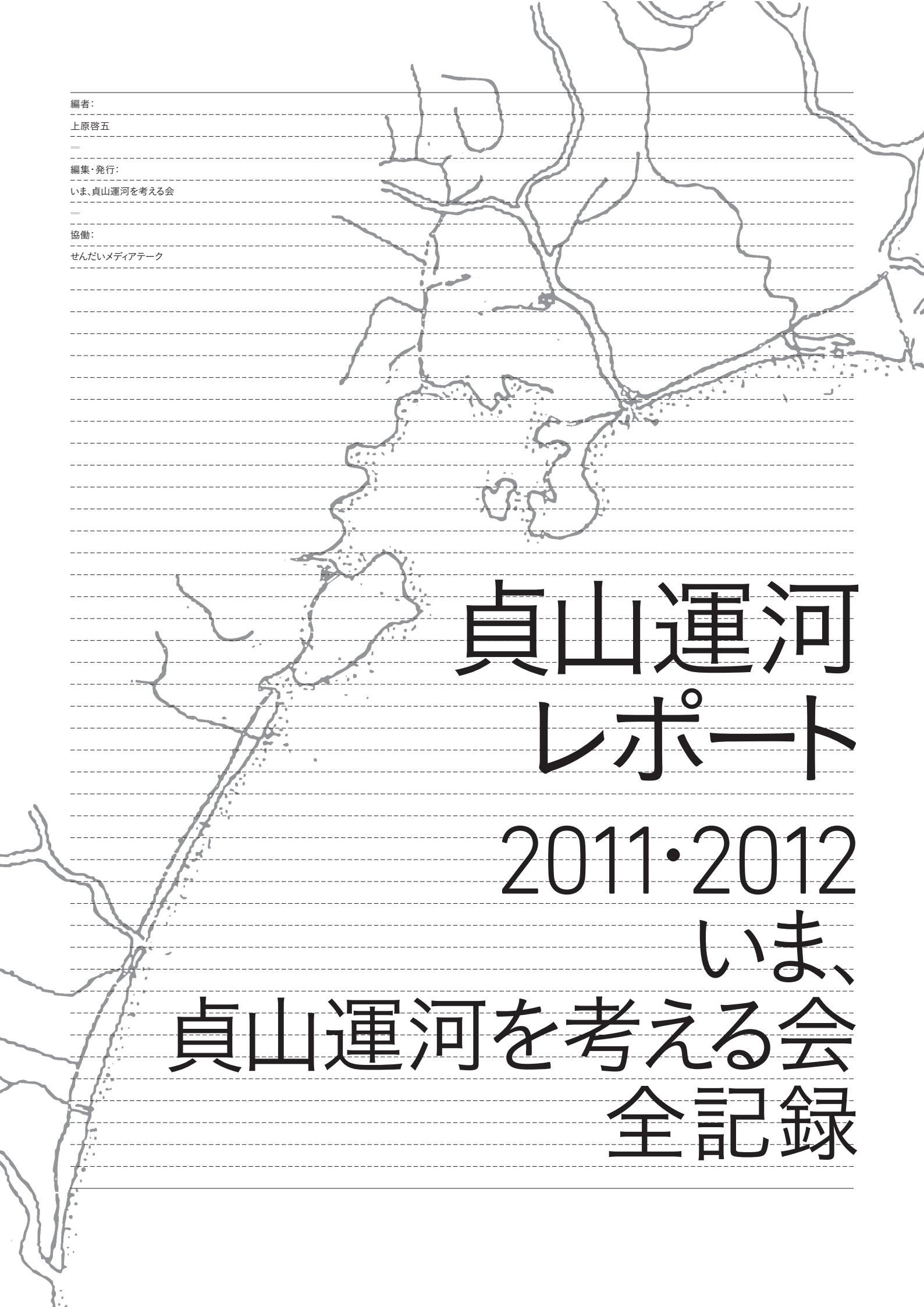
編者：
上原啓五
＝
編集・発行：
いま、貞山運河を考える会
＝
協働：
せんだいメディアテーク



# 貞山運河レポート

## 2011・2012 いま、貞山運河を考える会 全記録

# もくじ


03　はじめに
04　貞山運河基礎知識
07　対話の記録・開催データ
08　2011年｜第1回｜貞山運河の「○○」を考える
14　第2回｜貞山運河の「ふるさと度」を考える
18　2012年｜第1回｜貞山運河を知る
25　第2回｜貞山運河の「環境と自然」を考える
34　第3回｜これからの運河活用と防災
40　第4回｜貞山運河と暮らし
53　第5回｜貞山運河の遊びと観光
72　参考資料
73　貞山運河関係機関
74　編集後記


•ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御舟入堀、新堀、木曳堀を指します。
ただし、参加者の発言は統一せず、そのまま記載しています。
•2011年第1回〜2012年第5回の記録は、『考えるテーブル』ウェブサイトに掲載したレポートをもとに修正・加筆しています。
『考えるテーブル』ウェブサイト
2011年　http://www.smt.jp/thinkingtable/
2012年　http://www.smt.jp/thinkingtable2012/
•イベントの記録写真はせんだいメディアテーク提供です。

# はじめに

**『考えるテーブル』への参加**

せんだいメディアテークは、東日本大震災後再開した2011年5月より、震災復興や地域社会、表現活動について人が集い考えていく場を『考えるテーブル』と題して、1階オープンスクエアや7階スタジオaに開いています。そこでは、トークイベントや公開会議、市民団体の活動報告会などを実施しています。私は津波の被害にあった宮城県沿岸部の貞山運河をテーマにした話し合いを『考えるテーブル』で開きたいと考えました。

**『いま、貞山運河を考える』の趣旨**

震災後、さまざまなところで復興会議が開かれ、そこでは広範囲にわたる抽象度の高い話や、逆に医療や福祉、産業など細分化されたジャンルの中で話し合いが行われています。これに対し、『いま、貞山運河を考える』はひとつの具体的な場所を切り口に、ジャンル分けをせず、さまざまな立場の方とさまざまな話をしてみることで、その話の中から、復興計画に反映できることを見出そうとする試みとして始めました。特に貞山運河は歴史的な土木遺産であり、その再生と復興には強い関心がありました。

動機は数年前に私が見てきたドイツのIBMエムシャーパーク・プロジェクトでした。それはドイツの重工業地帯にある汚染されたエムシャー川の環境と産業を見事に再生し、新たな産業を生み出し、産業遺産としてドイツの新しい観光地にもなっているものでした。

防災のためだけの復興では知恵がない。宮城県の復興は貞山運河を軸線にし、第一に産業、生活基盤として、次に記憶の場として、さらに地域のアイデンティティ、歴史遺産として、環境と景観を考えた復興を目指さなければと思いました。

こうして、いろいろな立場の方が気軽に発言できる雰囲気の中で語り合い、記録を残すとともに、ここに寄せられた意見を広く世界に発信したいと思い、この対話の場を開きました。

**「美しい復興」を目指して**

これまで7回の開催で、貞山運河の特徴、魅力、歴史など数多くのことを学びました。そこから、貞山運河が宮城県にとって貴重な土木遺産であることを理解し、以前よりも興味深い存在になりました。復興が進む中で、その歴史的な景観がどうなるのか不安でしたが、延べ200人以上の人が集まりさまざまな意見とユニークなアイデアを聞くことができました。そして、以下の3つの柱が見えてきました。

- 世界中の誰もがこの震災を知っています。どのように復興するのか注目されています。貞山運河の再生は復興のシンボルとして復興の原動力になります。
- 49kmの日本一長い運河の再生利活用は地域間の協力が必要です。それは新たな絆をつくることになるでしょう。
- 貞山運河を知ることは郷土の歴史を知り、歴史的な土木遺産としての価値を再発見すること。それは、地域のアイデンティティを未来につなげる役割を果たすでしょう。

ネットワークをつくることで世界中から人材、デザイン、プラン、資金を集めることができたら、さらに美しい環境と景観を創ることができます。

『考えるテーブル』は復興について考え話し合う場で、意見を集約して直接行政に働きかける場ではありませんでしたが、私はこの会の代表として、宮城県土木部河川課が主催する『貞山運河再生・復興ビジョン検討座談会』に呼ばれ、今回の対話の記録について講演する機会を得ました。これからもいろいろな団体と一緒に行動しながら貞山運河の再生・復興に関わり「美しい復興」を目指したいと思います。このレポートが、これから貞山運河について知りたい、考えたいという人の一助となることを願っています。最後にはなりますが、これまで対話に参加してくださったみなさん、協力してくださったみなさん、ありがとうございました。

2013年9月7日　いま、貞山運河を考える会　代表 上原啓五

# 貞山運河基礎知識 | 黒田清志編

## 1：貞山運河

「木挽堀（こびきぼり）」と「御舟入堀（おふないりぼり）」と「新堀（しんぼり）」の3つの堀の総称。現在の総延長28.9km（完成当時は33km）。明治期の堀の改修の時（1881年）に伊達政宗公の諡（おくりな＝身分の高い人に死後贈る称号）「貞山」を用い「貞山堀」とした。その後、運河取締規則の中で「貞山運河」が正式な名称となった。

**1**──木挽堀
仙台城築城と城下町建設のための木材の運搬と沿岸の名取谷地の開発のための運河。1597年？～1601年。阿武隈川河口荒浜から名取川河口閖上まで15km。
**2**──御舟入堀
貢米の輸送を主たる目的とした。1658年～1673年。（塩竈市）牛生から七北田川左岸蒲生まで7km。
**3**──新堀
1870年～1872年。蒲生から閖上まで9.5km。

## 2：貞山運河群

関連する運河として、野蒜（のびる）築港のため開削された「北上運河」、「東名運河」がある。3つの運河の全長は約47km。全体を合わせて「貞山運河群」と呼ぶ。

**1**──北上運河
1878年～1881年？北上川河口から鳴瀬川河口まで13.9km。
**2**──東名運河
1883年～1884年。松島湾から鳴瀬川河口まで3.6km。

## 3：仙台藩の三大治水事業

貞山運河の開削。ほかの二つは「北上川の改修」、「品井沼の排水工事」。

## 4：川村孫兵衛重吉

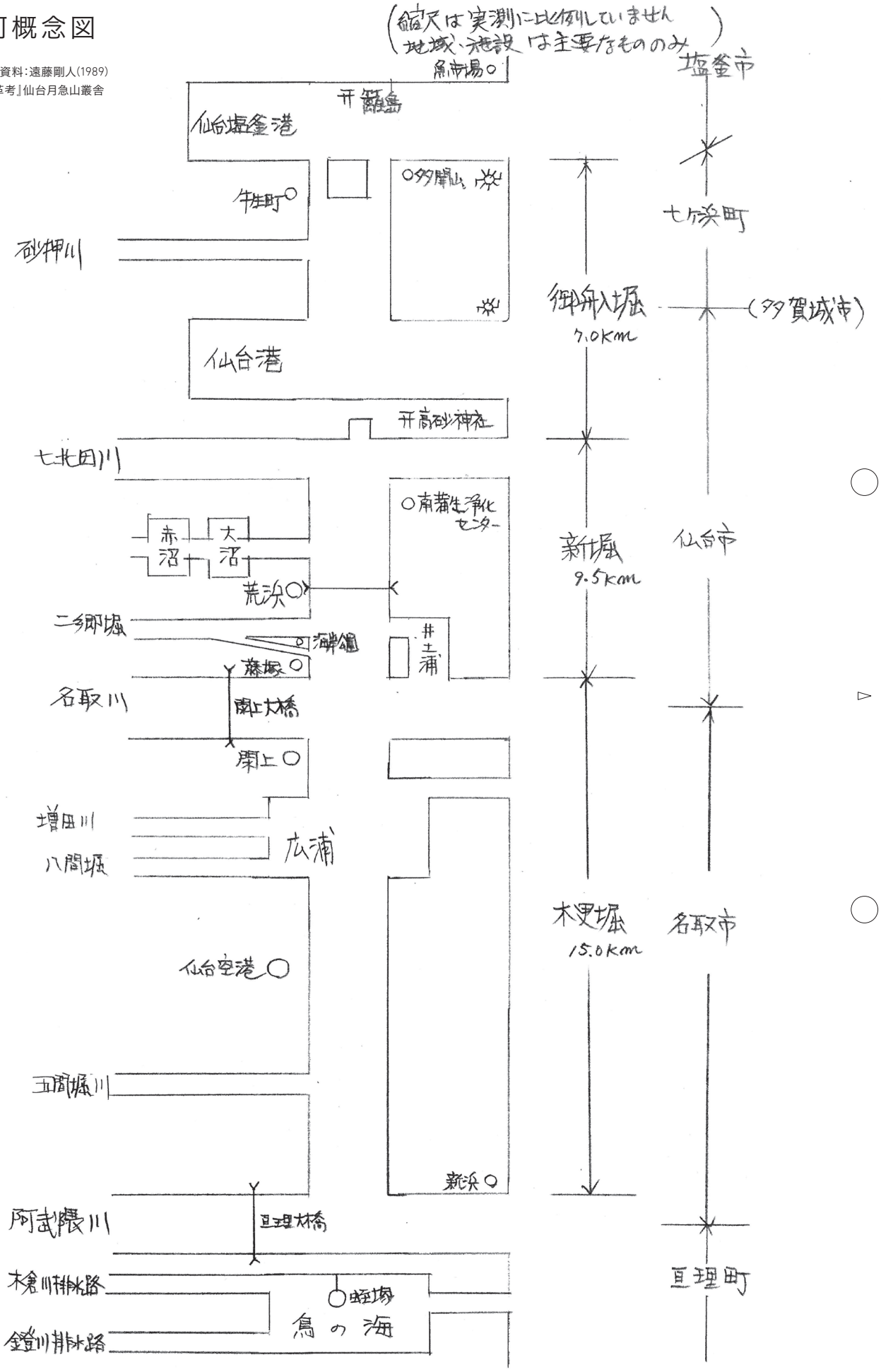
1574年～1648年。現在の山口県萩市生。
1590年頃、伊達政宗に仕える。貞山運河の木挽堀の開削者。北上川、迫川、江合川の改修、石巻の開港等の事業に功績。


［参考資料］
『貞山運河事典』
http://www.teizanunga.com/Pages/default.aspx
宮城県（1957）『宮城縣史』（第八巻）宮城県史刊行会
遠藤剛人（1989）『貞山・北上運河沿革考』仙台月急山叢舎
遠藤剛人（1967）『貞山運河成立史考 宮城県河川技術資料第49号』
宮城県土木部河川課


- 運河の長さや読み方、年代などは、文献により異なります。
- このイベントやレポートでいう貞山運河とは、
北上運河、東名運河、御舟入堀、新堀、木曳堀を指します。
ただし、参加者の発言は統一せず、そのまま記載しています。

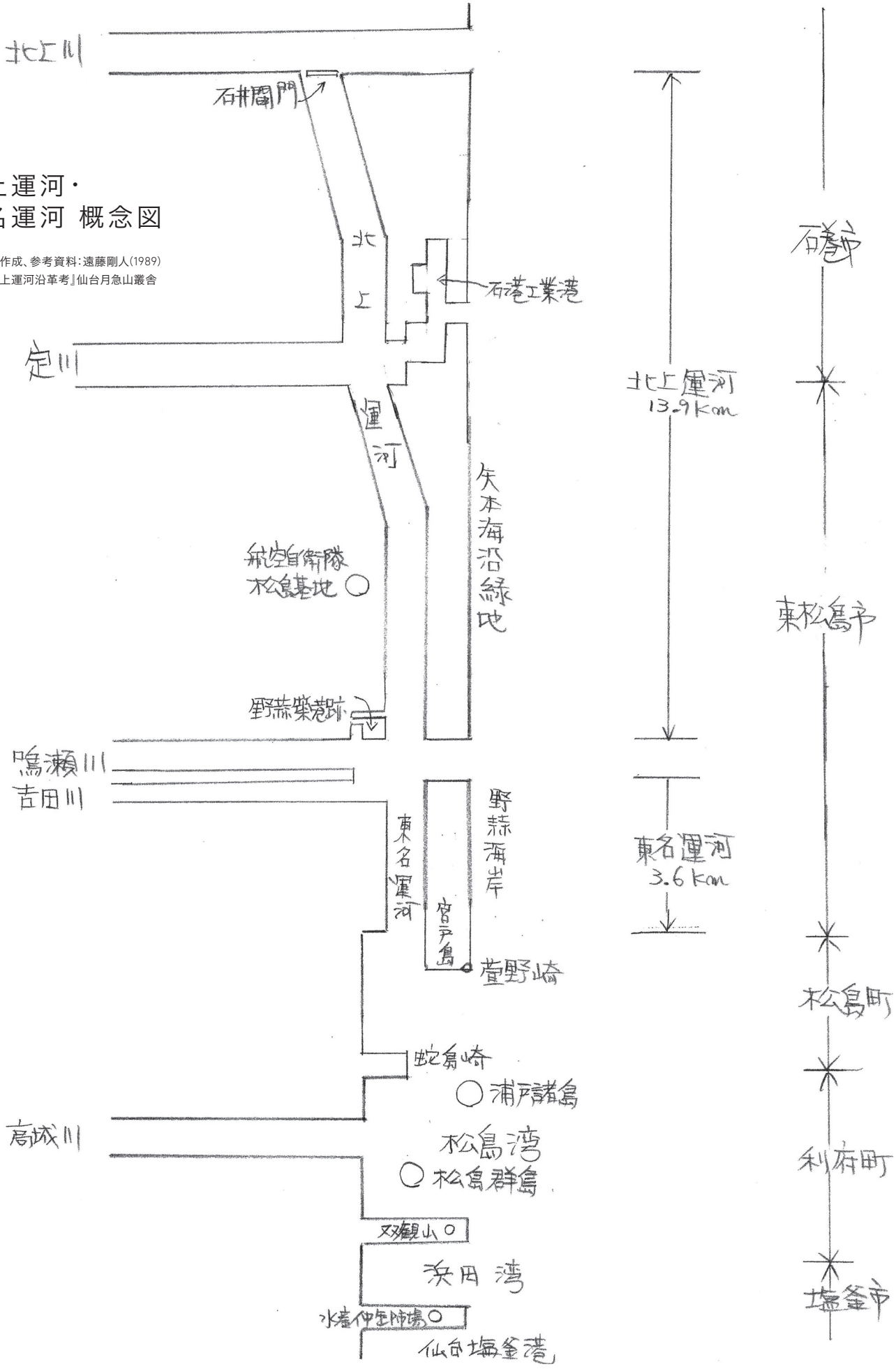
# 貞山運河概念図

黒田清志作成、参考資料：遠藤剛人(1989)
『貞山・北上運河沿革考』仙台月急山叢舎



# 北上運河・東名運河 概念図

黒田清志作成、参考資料：遠藤剛人(1989)
『貞山・北上運河沿革考』仙台月急山叢舎



# 対話の記録・開催データ

『いま、貞山運河を考える』は、2011年7月から2012年12月の一年半の間に7回行われました。2011年第1回、第2回は、本江正茂、上原啓五の両氏をコーディネーターに迎え、対話の場『考えるテーブル』の一プログラムとして、せんだいメディアテーク(以下、smt)が企画しました。
これを受けて翌年、「2回で終わらせたくない」とコーディネーターのひとりだった上原氏をはじめとする有志が「いま、貞山運河を考える会」を立ち上げました。以後、対話の場づくりは「いま、貞山運河を考える会」とsmtの協働作業のもと、対話の進め方を考えるところから再スタート。2012年第1回以降は、テーマ設定や話題提供者の出演交渉、進行、記録作成など、会のメンバーの得意分野を活かしながら手探りで行われ、回を重ねていきました。その結果、2012年第1～5回の対話には毎回25名前後が参加し、分科会形式で一人ひとりが想いを述べあうことができました。
終了後、『考えるテーブル』のウェブサイトに掲載した各回の報告には、貞山運河をめぐってさまざまな市民の声が集められています。また、参加者のアンケートをふりかえると、「意見や体験談を存分に話すことができた」という感想をはじめ、「運河の歴史を知りたい」、「もっとテーマを掘り下げたい」といった意見も出ています。さまざまな声を集めた、というひとつの成果を象徴するのが、2012年第5回の大地図への寄せ書きです。参加者が幅4mの地図に、運河で過ごした思い出や復興ビジョンをめいめい付せんに書き、貼り付けました。この寄せ書きは、貞山運河の被災・復興という歩みの中で、直接的に市民の声を拾い出した資料のひとつになったのではないでしょうか。

**[開催データ]**

**2011年 | 第1回 | 貞山運河の「○○」を考える**
7月6日(水)18:00-19:30 | 参加人数:45
せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
**コーディネーター** 上原啓五(いま、貞山運河を考える会/作庭舎)、本江正茂(東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻准教授/せんだいスクール・オブ・デザイン)

**2011年 | 第2回 | 貞山運河の「ふるさと度」を考える**
8月3日(水)18:00-19:30 | 参加人数:38
せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
**コーディネーター** 上原啓五(いま、貞山運河を考える会/作庭舎)、本江正茂(東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻准教授/せんだいスクール・オブ・デザイン)

**2012年 | 第1回 | 貞山運河を知る**
5月30日(水)18:00-19:30 | 参加人数:24
せんだいメディアテーク 7階スタジオa

**2012年 | 第2回 | 貞山運河の「環境と自然」を考える**
7月18日(水)18:00-19:30 | 参加人数:24
せんだいメディアテーク 7階スタジオa
**話題提供** 柳沼眞理(有限会社ネイティブサイン&デザイン研究所)

**2012年 | 第3回 | これからの運河活用と防災**
9月26日(水)18:00-19:30 | 参加人数:26
せんだいメディアテーク 7階スタジオa
**話題提供** 豊嶋純一(まちづくり部)、田川浩司(まちづくり部)、佐藤彰男(貞山運河の魅力再発見協議会/株式会社東日本リサーチセンター代表取締役/宮城大学事業構想学部客員教授)

**2012年 | 第4回 | 貞山運河と暮らし**
11月28日(水)18:00-19:30 | 参加人数:33
せんだいメディアテーク 7階スタジオa
**話題提供** 西大立目祥子(青空編集室/フリーライター)、貴田喜一(荒浜再生を願う会)

**2012年 | 第5回 | 貞山運河の遊びと観光**
12月19日(水)18:00-20:00 | 参加人数:32
せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
話題提供:黒田清志(いま、貞山運河を考える会/みちのくやまづと研究所)、髙橋悦子(NPO法人冒険あそび場――せんだい・みやぎネットワーク)

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

コーディネーター
上原 啓五（作庭舎）
本江 正茂（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
准教授 / せんだいスクール・オブ・デザイン）

被災地を貫く貞山運河（ていざんうんが）。
木曳堀、新堀、御船入堀、東名運河、北上運河からなる貞山運河は、
旧北上川河口から阿武隈川河口までを結ぶ日本一長い運河であり、
慶長２年（1557年）から明治17年（1884年）にかけてつくられた、
宮城県の誇る歴史遺産です。

かつてこれらの運河は、それぞれに異なる役割を持ち、藩米や木材などの輸送のために、
また野蒜築港運用のために開削されたものでしたが、
近年では、農業用排水路、ボートの係留地として、
また、サイクリングなどレジャーに活用される、地域住民のいこいの場でした。

これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、いま、貞山運河に思うことを話しあってみませんか。

※ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御船入堀、新堀、木曳堀を指す

**第1回** 2011年 7月6日（水）18:00－19:30
**第2回** 2011年 8月3日（水）18:00－19:30
会場：せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
入場無料、直接会場へ

**考えるテーブルとは**

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場を「考えるテーブル」と題してオープンスクエアに開きます。トークイベントや公開会議、市民団体の活動報告会など多様な催しを行っていきます。

http://www.smt.jp/thinkingtable/

【主催】せんだいメディアテーク
【問合せ】せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町２－１／TEL：022-713-4483／FAX：022-713-4482／E-mail：office@smt.city.sendai.jp
※この紙は、リサイクルできます。

# 2011年 | 第1回 | 貞山運河の「○○」を考える

**郷土史家、学生、主婦、ライターなど、さまざまな立場の人たちが集まり、貞山運河について、いまの率直な思いや、貞山運河の何について考えたいかについて話し合いました。参加者はテーブルごとに、それぞれ自己紹介をした後、「貞山運河の『○○』を考える」と題して、用意された1行企画書に書き込み、テーブルごとにテーマを発表していきました。**

**[参加者の発表内容]**

**貞山運河の「運河の駅」を考える**
拠点をつくる。観光で訪れた際のトイレや駐車場の整備。
約50キロの運河のうち、それぞれの地域ごとに拠点を設けて、地域の特性を出す。

**貞山運河の「劇場化」を考える**
地盤が悪いなどの欠点はあるが、世界の事例では運河を利用し楽しむものに変えている。
レストランを近くにつくったり、船を浮かべて、それを劇場にするなどしたい。

**貞山運河の「がれきを活かした公園」を考える**
生活空間と避難場所の機能を併せ持った場所をつくる。

**貞山運河の「ふるさと度」を考える**
貞山運河がもつ普遍的な魅力(ふるさと度=ふるさとの風景のように感じ、愛着を持つ感情)について考えたい。

**貞山運河の「防災」を考える**
住宅地と運河の間に堤防を造るプランはあるが、単純に堤防の陰に住宅を隠すのではなく、宅地を高くして海の見える宅地にする。景観と防災と居住地の安全をセットで確保する。

**貞山運河の「再興のもと」を考える**
プランを考える前に、街のこと、生活のこと、漁業や農業のことを考え、人間と自然の間合いをとりながら、占有と財産を守る方法を考える。

**貞山運河の「親水空間づくり」を考える**
もともと家族や子どもが楽しめる海水浴場などがあったが、水に親しみながら防災教育ができる環境をつくる。

**貞山運河の「近辺に文化創造の村をつくる」を考える**
集約拠点のような場所をつくる。

**貞山運河の「ラウンド・テーブルづくり」を考える**
運河についての議論の場をつくる。

**貞山運河の「トライアスロン実施」を考える**
道路と水路を活かす。注目を集めることができる。

•似たような案で、「駅伝」ということを考えられた方もいらっしゃいました。

**貞山運河の「①多様な魅力」「②多様な機能」「③多様(多角的)な利(活)用」を考える**
5つの運河にはそれぞれの魅力と活用法があるはずなので、それをひとつずつ掘り下げていく。

**貞山運河の「人間の為にも鳥たちの為にも水の廻廊」を考える**
魚や鳥がたくさん住んでいれば人間もたくさんやってくる。そうなれば本来の運河としての利用もできるが、さらに川も利用することで(内陸まで)回遊ができるようになればよい。

**貞山運河の「観光」を考える**

**貞山運河の「自然」を考える**

**貞山運河の「松林」を考える**

**貞山運河の「価値」を考える**
歴史的な価値はもちろん、それ以外にもある価値を考えてみる。

**貞山運河の「地域密着」を考える**
その地域と運河の昔ながらの関わり方を知ってもらう。

**貞山運河の「蒲生の川湊、舟入堀の復元」を考える**
これを機に昔(建設当時)の堀を復元する。

**貞山運河の「営みの記憶の記録と再生」を考える**
生活や生業(しじみ漁など)や遊びなどの掘り起こし。今後、貞山堀の近くに住むことはできなくなるかもしれないが、そこに住んでいたという記憶を忘れないための記録と再生。

貞山運河の

人間の為にも

水の通廊

鳥たちのためにも

を考える

貞山運河の

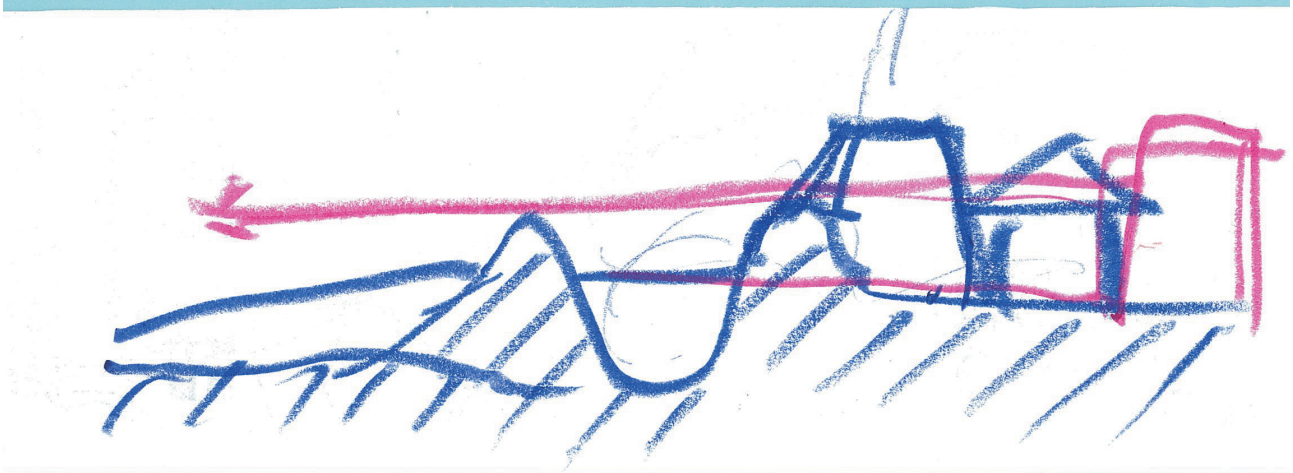
営みの記憶

生活
生業←シジミ漁など…
遊び

の①記録と②再生

を考える

貞山運河の



を考える

貞山運河の

魅力って何んだ

を考える

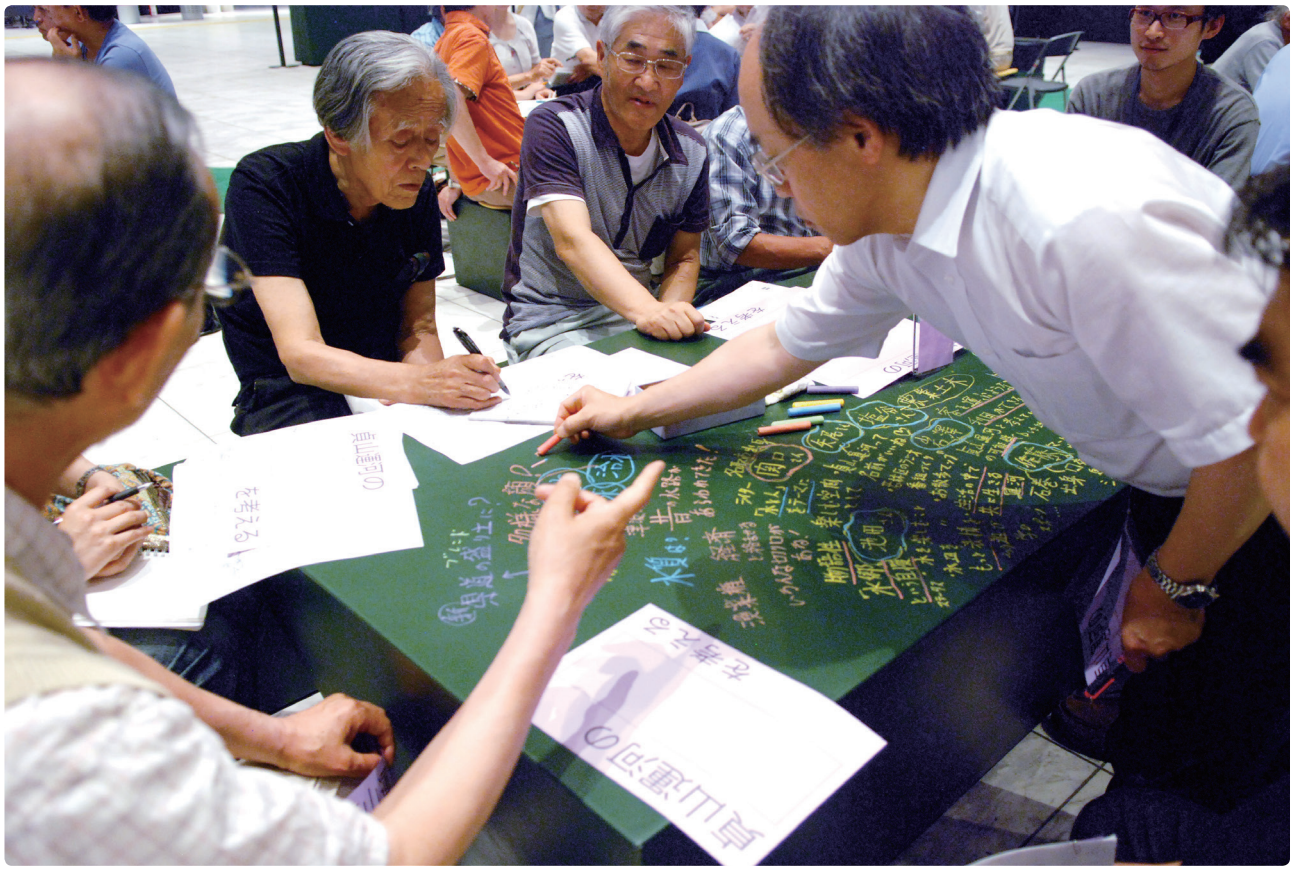
**貞山運河の「青葉城址から、政宗の視点で北上川、阿武隈川という日本5大河川の2つを東名、貞山運河で結び水平線を丸く見て、広瀬川の水はローマへと向かうという目で仙台平野の光景を『3.11』から考えてみる。世界歴史遺産としての仙台平野。原爆ドーム、負の歴史遺産としての福島原発とともに」を考える**

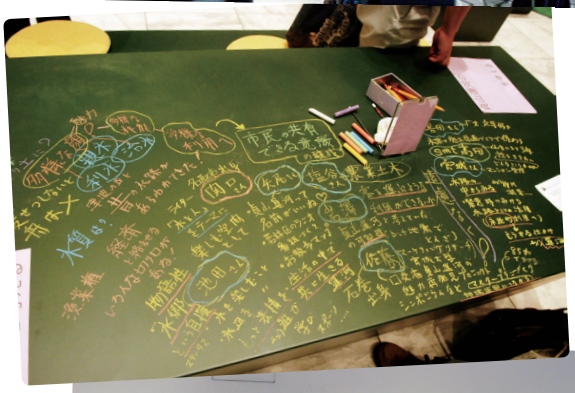
伊達政宗ならどんな復興を考えるかという視点で考える。貞山運河をみる(考える)ことは仙台平野をみる(考える)こと。

**貞山運河の「魅力って何だ」を考える**

**[黒板への書き込み]**

- 仙台市は松島、東名、貞山運河を「世界遺産」に申請を。
- 5名の命を救った「海岸冒険広場高台展望台」を3.11記念塔に。
- 早く美味しい貞山堀のシジミ汁を食べたい。
- 多様な顔(=魅力)親水、利水、治水。
- 水辺にもっと表情を(遊び、学び、スポーツ)。生活の中でともに生きる運河として。
- 経済と絡ませる。いろいろな切り口があるはず。
- 永続的な活用のための儲かる仕組み(運河の駅など)
- 物語性を掘り起こす。
- 緊急時の水路としての利用。
- 新県道の盛り土に活用。
- 津波のあと、昔の水路が現われてきた!



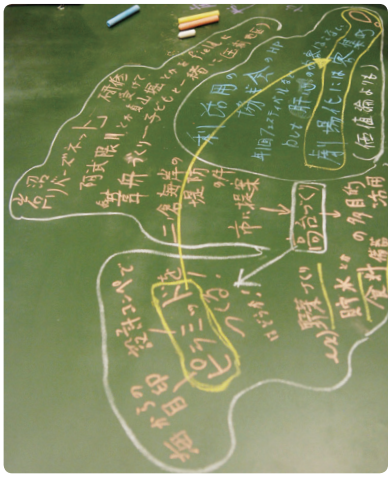

市民が共有できる貞山運河の魅力
水質は、景観は、
浸食帯 緑帯
市内大
物語性
池田
先人の
信仰
貞山運河
新しい河川
「水辺」
「水路」
「水辺」
「水路」
「水辺」
「水路」

# 2011年 | 第2回 | 貞山運河の「ふるさと度」を考える

**前半は第1回で出た「貞山運河の『ふるさと度』を考える」というテーマを取り上げ、参加者全員が貞山運河について、あるいは自らのふるさとの原風景について語り、なぜこの会に参加したのかという想いを共有しました。**
**ここではこのテーマを投げかけた参加者のお話を掲載します。**

［**話題提供 参加者**］

前回の話し合いの際に、「自分はまた貞山運河で暮らし、そこで死にたい」といった発言があり、「ふるさと」といったものについて考えさせられました。
よく、国内や海外に旅行に行って初めて出会う風景に妙に懐かしさを覚えたりすることがあります。昔、トルコとシリアの国境沿いにあるシャンル・ウルファに行き、砂吹雪のなかで逞しく生きている人々の姿に妙な懐かしさを覚えた記憶があります。そこは自分のふるさとのような気がしました。もちろんそれは、単にその風景が好きだからといった薄っぺらな意味においてではありません。
それが自分の原風景のような気がしました。もちろん、トルコのシャンル・ウルファは自分が育った山口県とは似ても似つかない環境です。にも拘らず、なぜ自分はその場所に「ふるさと」を感じたのか。実は、その頃からそもそも、ふるさととは何なのかと考えるようになりました。
そこには、なにかふるさとと呼びうる、つまりはふるさとを形成する普遍的な要素というか要件があるのではないか、と思ったのです。
前回、同じグループにいた方の発言から、その問題が再び自分の中に呼び覚まされました。貞山運河は、もしかすると宮城の人だけでなく、多くの人にとってのふるさとになり得る要素を備えているのではないか。ここでは、その要素の強さを「ふるさと度」と勝手に呼んでみました。
よく、ふるさとは原風景といった切り口から語られることがあります。前回、私が参加したグループの中にもそのような発言がありました。
原風景とは原体験におけるイメージで、風景のかたちをとっているものという意味です。そして、そのイメージとして現れてくる原体験とは、その人の思想が固まる前の経験で、以後の思想形成に大きな影響を与えたものということのようです。
自分の原体験、つまりそこで生活をし、子孫を残し、子どもを育て、伝統を受け継ぎ、それを発展させ後代に繋ぎ、一時的にそこを離れても常に自分の傍にあり、最後にはそこで死に、葬(おく)られたいとまで思う場所、それがふるさとと呼べるものなのかもしれません。前回の参加者の発言の「そこで死にたい」にはそういった感覚があるように思います。
ふるさとには、そういった生の豊かな循環システムと自然との共生といった要素が何かしら関わっているのではないでしょうか。だから我々は、生死に関するプリミティブな儀礼様式の中に妙な懐かしさを憶えるのかもしれません。ふるさとは、だから自分の出身地と言った特定の場所に限定して考えるべきではないのです。さらに、そういった、生死に関する循環システムの文脈で、貞山運河だけでなく、沿岸部を含めた宮城全体の復興を考えるべきだと感じています。



貞山運河

［**各グループでの話し合い**］

第１回の１行企画をもとに８つのテーマが設定されました。

**1：**物語を掘り起こす
**2：**海の見える宅地
**3：**水路の駅
**4：**劇場化
**5：**儲ける
**6：**瓦礫を活かす
**7：**トライアスロン
**8：**しじみ汁

参加者は興味のあるテーマのテーブルに着き、そのテーマについて語り合いました。
各テーブルではたくさんのユニークなアイデアが飛び交い、また、多様な視点で語られていたのですが、発表時にはすっきりと整理され、以下のような意見としてまとめられました。

**テーマ１：物語を掘り起こす**
- 貞山公、政宗が生きていたらどう考えるかに想いを馳せて、地域史を大切にしたい。
- 貞山運河には一言では語りつくせない、複雑さと巨大さがある。また、さまざまな切り口があると思う。
- そもそも、「なぜこの運河に魅かれるのか？」を掘り下げていきたい。
- 龍神など水の神様から読み解く。

**テーマ２：海の見える宅地**
- 「見える」とは誰のため？ もともとの住民は望まないのではないか。
- 「対津波」の構造を考えるきっかけになるのではないか。
- 津波対策を考慮した建築設計を考える。それらの建築群からなる景観は地域の特色となる可能性がある。

**テーマ３：水路の駅**
- 舟運可能な水路の復活を基本に置く。
- 高速道路と海岸線の間を公園化し、経済的効果を生む施設を設け、貞山掘を復旧保存する。
- 水路の駅はそのための施設のひとつとする。

**テーマ４：劇場化**
- 高台や公園のような機能を持つピラミッドをつくる。ピラミッドに登ると貞山運河と海が見渡せる。また、登ると恋愛が成就するという都市伝説（ストーリー）をつくり、仙台のデートスポットにし、集客を得る。

**テーマ５：儲ける**
- 「貞山堀寺」を新設し、ペット供養とお墓で儲ける。また、住職を募集する（高齢者に限る）。
- 貞山堀を活用（再生）した舟下りツアーを行う。舟から見える景観は伊達政宗時代（江戸時代）を思い起こされるものとしたい。

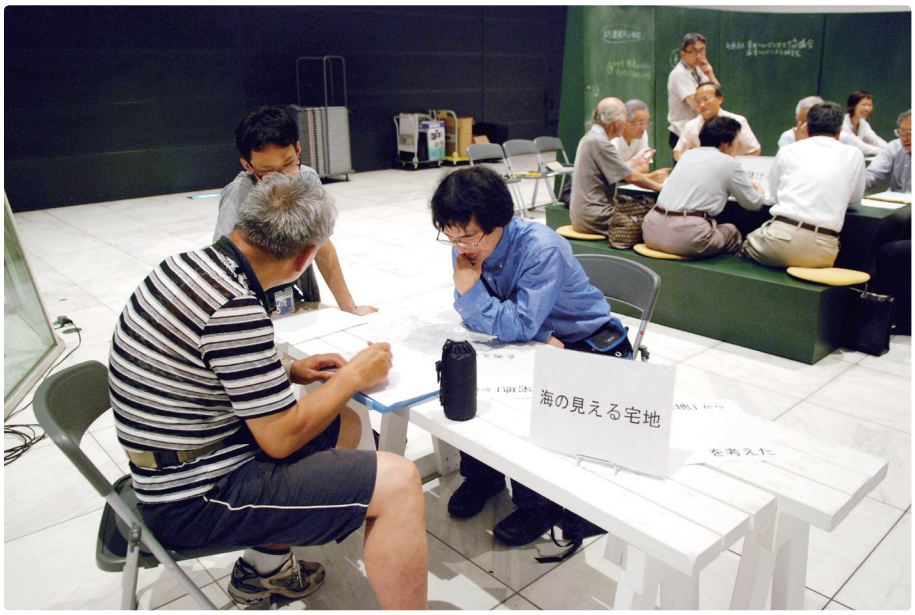
また、そのツアーでは地元で採れる魚介類、新鮮な野菜を利用したレストランを利用させる（地元経営者レストラン）。新設の地下鉄荒井駅から貞山堀まで定期バス等を運行する。
- ハマボウフウ。今では少ないが、昔から食用や消臭剤などに利用されてきた植物を再生させる。
- ボート競技場（2020年オリンピック会場）として活用する。

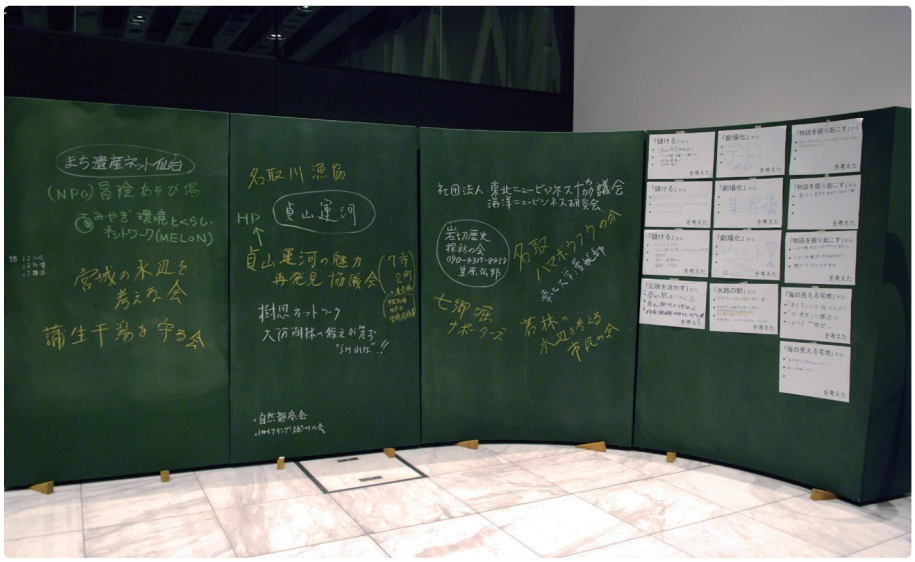
**テーマ６：瓦礫を活かす**
- 夢の島をつくる。瓦礫を沖合に持っていき、複数の人工島をつくる。

また、それらは津波が来た際には波の勢いを弱める減災の効果もある。
- 貞山運河を埋める。
- 住宅、道路の嵩上げに使う。

最後、黒板には、貞山運河と関係する諸団体の名称が書き込みされました。
（このイベントの参加者の所属団体名を書きこんでいただき、そこでヒアリングしながら相関図を作成したいと考えていたのですが、時間の都合上そこまで至らず、名称を残すに留まりました）

儲ける


海の見える宅地


まち遺産ネット仙台
(NPO)冒険あそび場
みやぎ環境とくらしネットワーク(MELoN)
宮城の水辺を考える会
蒲生干潟を守る会
名取川漁協
貞山運河
HP
貞山運河の魅力再発見協議会
樹恩ネットワーク
大河内林の植えが育ち
社団法人 東北ニュービジネス協議会
海洋ニュービジネス研究会
岩切歴史探訪の会
七郷保
サポーターズ
芳林の水辺を考える市民の会
「儲ける」から
「劇場化」から
「物語を盛り起こす」から
「伝統を活かす」から
「水路の駅」から
「海の見える宅地」から
を考えた

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

被災地を貫く貞山運河（ていざんうんが）。
木曳堀、新堀、御船入堀、東名運河、北上運河からなる貞山運河は、
旧北上川河口から阿武隈川河口までを結ぶ日本一長い運河であり、
慶長2年（1557年）から明治17年（1884年）にかけてつくられた、
宮城県の誇る歴史遺産です。

かつてこれらの運河は、それぞれに異なる役割を持ち、
藩米や木材などの輸送のために、
また野蒜築港運用のために開削されたものでしたが、
近年では、農業用排水路、ボートの係留地として、
また、サイクリングなどレジャーに活用される、地域住民のいこいの場でした。

これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか。

2年目となる今年は、各回テーマごとに考えを深め、市民の声をまとめていきます。

※ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御船入堀、新堀、木曳堀を指します。
※この企画は、ヒアリングした意見を集約し、自治体に提言する案をまとめるものではありません。
※イベント当日は、イベントのレポートとしてウェブサイトに公開するために、会場の様子を写真撮影します。

2012年 5月 30日（水）18:00－19:30

## 「貞山運河を知る」

会場：せんだいメディアテーク　7階　スタジオa

入場無料、直接会場へ

次回予定　7月18日（水）18:00－「環境・自然」

【主催】いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク

【問合せ】TEL／FAX：022-222-0250（上原）

**考えるテーブルとは**

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場を「考えるテーブル」と題して7階スタジオに開きます。トークイベントや公開講座、市民団体の活動報告会など多様な催しを行っていきます。

http://www.smt.jp/thinkingtable/

※この紙は、リサイクルできます。

# 2012年 | 第1回 | 貞山運河を知る

**2011年にせんだいメディアテークの『考えるテーブル』で行われた「いま、貞山運河を考える」という催しを2012年も引き続き開催しました。**
**20名ほどの参加者が集まり貞山運河についてのそれぞれの想いを語り合いましたが、昨年（2011年）も参加された方だけでなく、今回初めて参加された方も大勢おられ、活発な議論が交わされました。**
**今回は「貞山運河を知る」というテーマで、これまでの経緯や現状、今後期待する将来の利活用の方向などについて自由に意見を発表しました。**

## ［対話の進め方について（主催者から）］

昨年（2011年）、メディアテークで「いま、貞山運河を考える」という催しを2回行ったが、そのとき、ユニークで面白い意見がいろいろ出てこのまま終わらせたくないという話になった。そこで、今年（2012年）もみなさんからいろいろな意見を集め、ここメディアテークから世界中に情報発信したい。行政や専門家だけでなく一般市民からの意見や考えを集めていきたい。
「意見をまとめて提言する」というのは難しい。「意見を集めて発信する」という形を考えている。今年は去年の繰り返しではなく、より掘り下げていきたい。まず現状を知った上で、次回以降テーマごとに実現可能性のある形を論議していきたい。
震災以降、走り出している行政の方向性と住民の想いが乖離してきている。市民レベルでひとつのテーブルで話をする中から方向を探っていきたい。

## ［全体討議］

**経緯と現状**

- 貞山運河は、岩沼から石巻まで全長49kmの壮大ですばらしい歴史遺産だ。
豊かな自然を〈保全〉するだけでなく「観光産業」にも結びつけたいと国土交通省や7市2町で『貞山運河の魅力再発見協議会』を立ち上げ、これまで3回のシンポジウムを開いたが震災で中断している。
今後は、まず、貞山運河が震災で受けたダメージを調査して、現状を把握したい。
- 貞山運河の河川管理者は、宮城県土木部河川課。高潮対策としての+7.2mの防潮堤の築造計画を進めているが、景観・親水性なども含め貞山運河の利活用について市民からの要望を期待しているとのこと。
- 仙台市文化財課では貞山運河を「埋蔵文化財」として登録しており、改修などの際は届出が必要とのこと。

**利活用方策など**

- 貞山運河の歴史文化を忘れていることは残念。貞山運河はそれなりの歴史を持っており文化財として生きている。今後も「文化資源」・「歴史資源」として捉えていきたい。
- 政宗公の貞山運河や四ツ谷用水などのダイナミックな土木事業が今も受け継がれていることを大事にしたい。
- 阿武隈川・名取川・北上川と、大きな川の水の流れを貞山運河がつなぐ。みなさんの力で働きかけ、活力ある観光産業など、県の事業として貞山運河の整備を期待したい。
- 石巻から野蒜にかけての景観はすばらしい。ぜひ残したい。
- 建築などの建造物に比べて「土木遺産」の力強さを感じる。海との多様な付き合い方も含めて、貞山運河のスケールの大きさ風景の力強さなど貞山運河のありがたみを考えていきたい。
- 貞山運河の絵を描いている。すばらしいスケッチポイントがたくさんあり景観としての価値が高い。どこかに津波の記憶を残すなど震災後も新しい景観を作り出していくという考えでやっていきたい。
- 人は美しいところに集まる。貞山運河を汚いまま

にしておきたくない。

●もともと舟運を目的として開削された貞山運河であり、将来も漁業のための船だけでなく舟遊び用の舟なども使った〈観光〉目的の、しかも〈被災地復興観光〉的な利用も考えていきたい。

●公園や道路などの盛土用の土を確保するためにも「第二貞山運河」を提案したい。

●「仙台藩遺産復興政宗プロジェクト」を提案したい。仙台市海岸公園冒険広場の高台を貞山運河から南東に、太平洋を西に、仙台平野を望む展望台「3.11メモリアル」として活用するなど、現地を歩いて考えたらどうか。

●貞山運河と同時代にできた四ツ谷用水をどこかに復元したいと考えている。

貞山運河をビジネスに結び付けて観光資源とすることも今後の課題だ。

●松くい虫被害も拡がっている。ライトアップの功罪も議論されている。

水質悪化の一因に農業排水も影響している。

●若林区のまちづくりの中では貞山運河のことまでは、話題が進んでいない。

津波で流された所という事実も踏まえながら、広々としたスケールの大きな魅力を多くの人に知ってもらいたい。「絞り込む」ことも必要だろうが、もっと広く「生活の場から見た貞山運河」という話も続けていきたい。

●県の河川課が計画を持っているのが心強い。行政との結びつきを保ちながら進めていきたい。

●現在の貞山運河を歩くと惨憺たる状態だ。その姿をこの目に焼き付けておきたい。ぜひみなさんも歩いてみてほしい。

**防災機能**

●観光資源としてだけではなく、津波のクッションになるなど防災面でも役立つのではないか。

●下水道の雨水排水機能の不十分さが貞山運河にも悪影響を与えている。内陸と海とを切り離しては考えられない。住む場所についても、住民一人ひとりの意向を聞いていくことが必要だ。

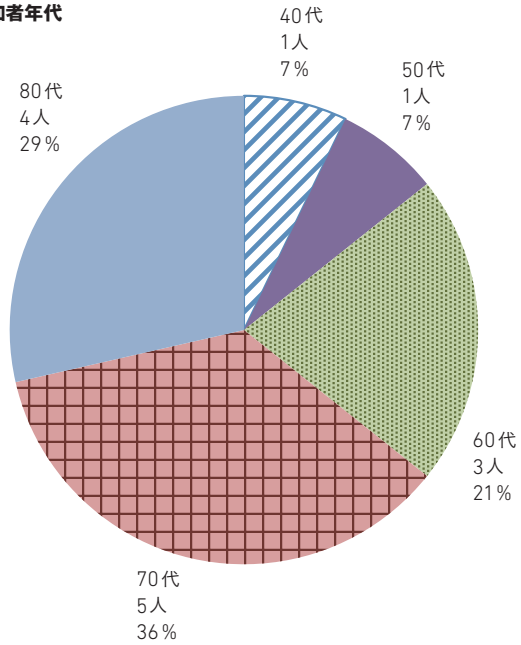
●貞山運河の防災機能としては、津波もさることながら「雨水排水施設」・「農業排水施設」としての基本的な機能を忘れてはならない。

●その基本機能を最優先とした上で、その上に立っての「利活用」であるべき。

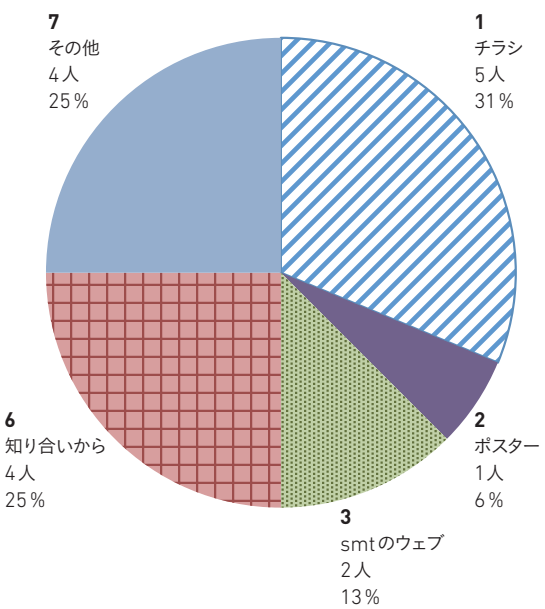
●知らないことが多すぎる。「貞山運河を知る」ためには、まず「知っている人」を呼んでその人から話を聴くべき。そうやって「聴いて」、「知った」上で、現場を見て考えていくことが必要。

●インターネットによる情報発信だけでなく、「紙ベース」でも記録を提供してほしい。

**参加者年代**




**何で知ったか**　※複数回答(「何で知ったか」のみ)/14名回答(参加者24名)



[**アンケートより**]

●『考えるテーブル』は、あるテーマでそのテーマについて、一人ひとりが考えを語り、思いの実現に向け、まず現場を歩き、「歩きながら考える会」へ。

●『考えるテーブル』の構成に興味あり。貞山運河という仙台市内では知られていないマイナーなテーマに集まってくださる方々へ感謝です。

●貞山運河を考える会として今後も続けてほしいです。これからも貞山堀を大切にして、若林区、荒浜、全被害を受けた方々の意見をとってほしいです。まちづくりとして育ててほしいです。仙台市の意見も参考にしてください。

●貞山運河について知りたいので参加しました。いろんな視点からの意見が聞けて勉強になりました。

●「自分の住んでいる地域のまちづくりに役立てられないか?」と考えて出席した。歴史遺産としての「貞山運河」には興味があるのでこれからも参加したい。特に「現地を見る」ことから始め、考えたい。話がどうなっていくのかが楽しみである。

●初回から参加しています。今回はちょっと『考えるテーブル』の流れと違うな? という印象でした。しかし、みなさまの話を聞くことができてよかった。次回も参加したいと思います。

●昨年(2011年)1度参加しただけだったので。その後も同じようなことが行われていることを知り、今度はどのような内容なのかと思って顔を出してみました。昨年参加したときも感じましたが、主旨がよく分からないまま終わってしまいました。

●貞山堀の一部を歩いてきた。震災から復興をみなさんはどのように考えていらっしゃるか知りたかった。

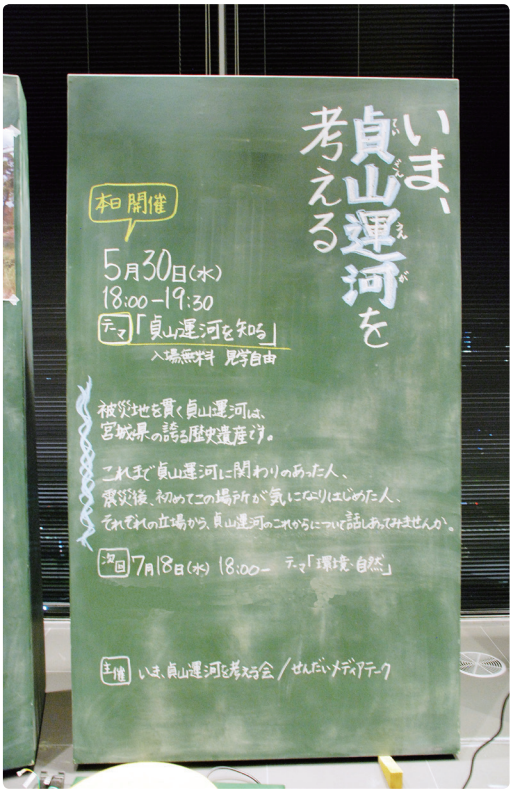
●スケッチで親しんでいる運河をもっと知りたい。震災後の運河の行く末が心配です。問題の多面性について勉強になりました。

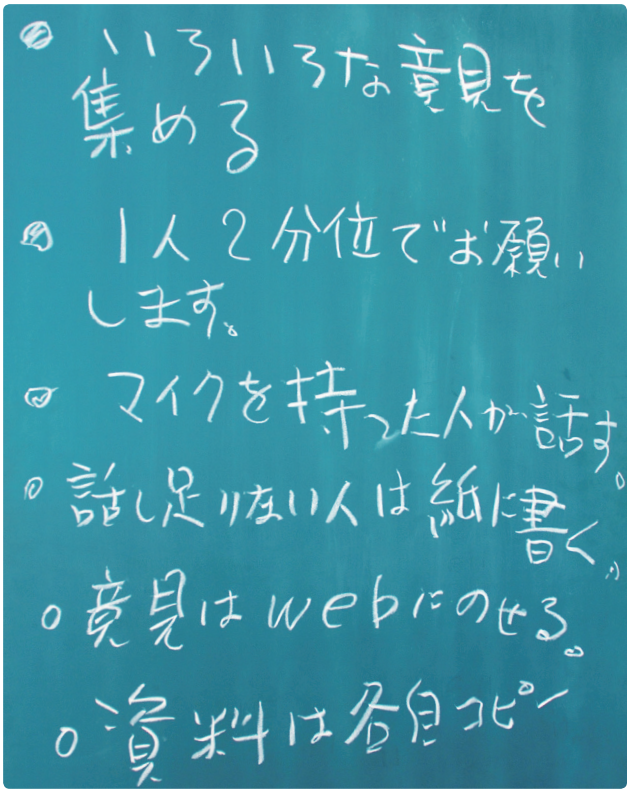
●貞山運河の調査を続けてきたので。多様な意見を聞きたいので。

●大変参考になりました。これからも参加したいと思います。

●いろいろ参考になりました。

●貞山運河に対する深い愛のみ。「考える会」としての活動と『考えるテーブル』が自分の中でうまく折り合いがつかない。今後、どういうスタンスで参加していけばいいのか……。


いま、貞山運河を考える
本日開催
5月30日(水)
18:00-19:30
テーマ「貞山運河を知る」
入場無料 見学自由
被災地を貫く貞山運河は、
宮城県の誇る歴史遺産です。
これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか。
次回 7月18日(水) 18:00- テーマ「環境・自然」
主催 いま、貞山運河を考える会 / せんだいメディアテーク


いろいろな意見を集める
1人2分位でお願いします。
マイクを持った人が話す。
話し足りない人は紙に書く。
意見はwebにのせる。
資料は各自コピー

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

被災地を貫く貞山運河（ていざんうんが）。
木曳堀、新堀、御船入堀、東名運河、北上運河からなる貞山運河は、
旧北上川河口から阿武隈川河口までを結ぶ日本一長い運河であり、
慶長2年（1557年）から明治17年（1884年）にかけてつくられた、
宮城県の誇る歴史遺産です。

かつてこれらの運河は、それぞれに異なる役割を持ち、
藩米や木材などの輸送のために、
また野蒜築港運用のために開削されたものでしたが、
近年では、農業用排水路、ボートの係留地として、
また、サイクリングなどレジャーに活用される、地域住民のいこいの場でした。

これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか。

2年目となる今年は、毎回テーマを設定し、さまざまな角度から考えていきます。

※ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御船入堀、新堀、木曳堀を指します。
※この企画は、ヒアリングした意見を集約し、自治体に提言する案をまとめるものではありません。
※イベント当日は、イベントのレポートとしてウェブサイトに公開するために、会場の様子を写真撮影します。

## 2012年 7月 18日（水）18:00－19:30
## 貞山運河の「環境と自然」を考える

会場：せんだいメディアテーク　7階　スタジオa
入場無料、直接会場へ

次回　9月26日（水）18:00－19:30　「防災（仮）」
今後のテーマは「暮らしと仕事」「観光・遊び」「景観」などを予定

【主催】いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク
【問合せ】TEL／FAX：022-222-0250（上原）

### 考えるテーブルとは

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場を「考えるテーブル」と題して7階スタジオに開きます。トークイベントや公開講座、市民団体の活動報告会など多様な催しを行っていきます。

http://www.smt.jp/thinkingtable/2012

※この紙は、リサイクルできます。

# 2012年 | 第2回 | 貞山運河の「環境と自然」を考える

荒浜・貞山運河(仙台市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

井土浦・貞山運河(仙台市)/2012年2月24日/黒田清志撮影

荒浜・貞山運河(仙台市)/2012年2月24日/黒田清志撮影

井土浦・貞山運河(仙台市)/2012年2月24日/黒田清志撮影

荒浜・貞山運河(仙台市)/2012年2月24日/黒田清志撮影

井土浦・貞山運河(仙台市)/2012年2月24日/黒田清志撮影

荒浜・貞山運河(仙台市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

井土浦・貞山運河(仙台市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

井土浦・貞山運河（仙台市）／2011年6月23日／上原啓五撮影

蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年4月12日／上原啓五撮影

蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

蒲生・日和山（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

蒲生干潟（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

蒲生干潟（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

南蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年4月12日／上原啓五撮影

貞山運河（名取市）／2011年6月23日／上原啓五撮影

南蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

閖上・貞山運河（名取市）／2012年2月24日／黒田清志撮影

南蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年4月12日／上原啓五撮影

貞山運河（岩沼市）／2011年6月23日／上原啓五撮影

南蒲生・貞山運河（仙台市）／2012年4月12日／上原啓五撮影

貞山運河（岩沼市）／2011年6月23日／上原啓五撮影

貞山運河(岩沼市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

野蒜・東名運河(東松島市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

貞山運河(岩沼市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

野蒜築港(東松島市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

野蒜・東名運河(東松島市野蒜)/2011年4月23日/黒田清志撮影

石井閘門(石巻市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

野蒜・東名運河(東松島市)/2011年4月23日/黒田清志撮影

蛇田・北上運河(石巻市)/2011年6月23日/上原啓五撮影

**最初に、「いま、貞山運河を考える会」の上原と黒田が撮影した貞山運河の写真を紹介しました。撮影日時は昨年（2011年）震災直後から最近まで、場所は野蒜・東名運河から岩沼・阿武隈川河口付近まで。色の無い荒涼とした風景から緑の草に覆われた運河の土手まで、数十枚の写真が投影されました。（この写真はこのレポート内に掲載しています）**

**［話題提供］**

**柳沼眞理氏（有限会社ネイティブサイン＆デザイン研究所）**

業務として自然環境調査などを行う中で、環境負荷の小さい暮らしを心がけるようになった。人類が直面している危機的な事態を回避するチャンスは今をおいて無い。地球上の生物が相互依存による多様性を保ちながら環境の中で繋がりをもって生きている。貞山運河も最初は人工物だったが、長い歴史の中で育まれ伝統・景観・文化など豊かな多様性が保たれている。先ほどの写真の中でも、海を背景にしている所あり、田園を背景にしている所あり、海岸線を背景にしている所あり……と、多様な環境を抱えているのが貞山運河だ。そこにいろいろな「つながり」がある。

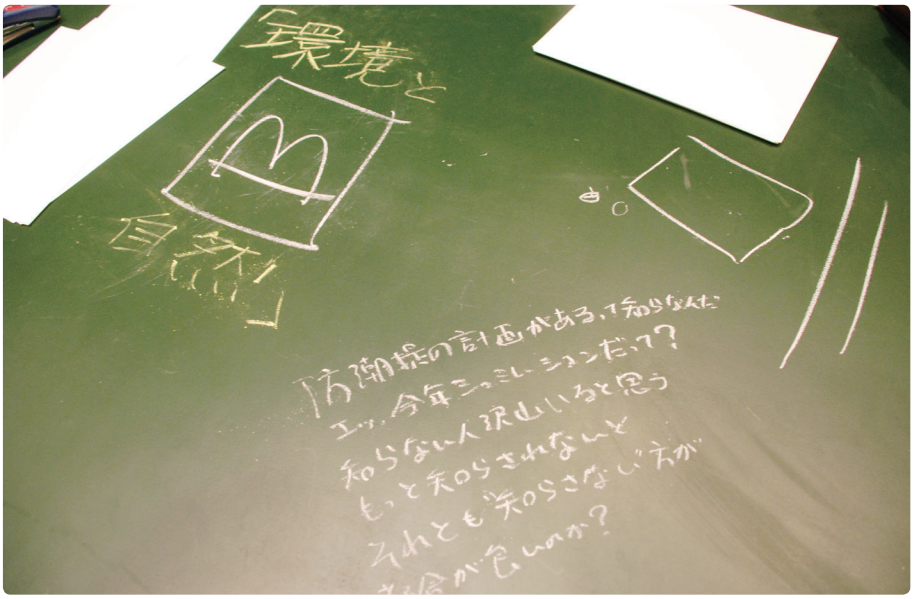
経済最優先ではなく自分たちの生命の基盤としての生物多様性を持った自分たちの環境、資料の中での「どんな生態系もサービスを提供している」という言葉を忘れないで欲しい。

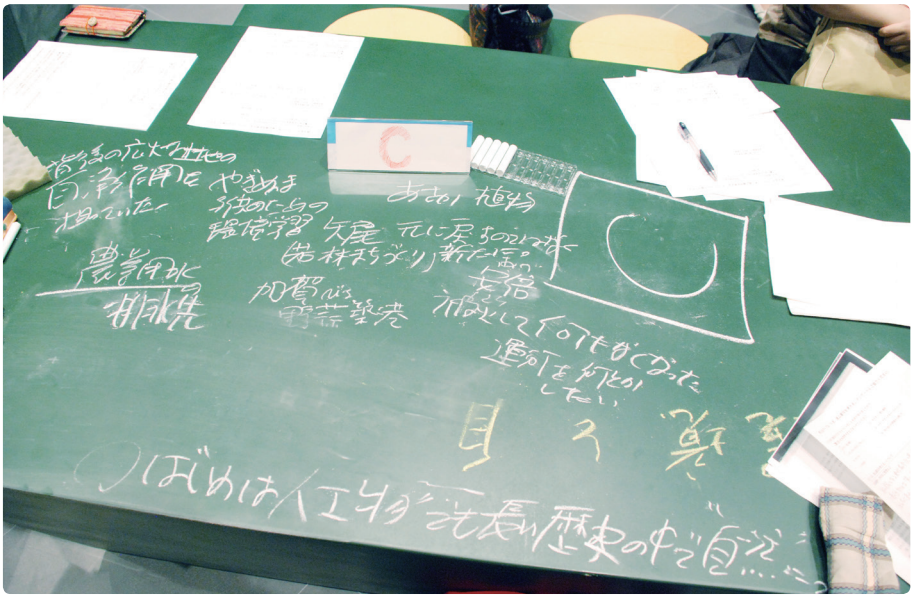
貞山運河を対象に考えた場合、これまでとは違った新たな発想で見直してみることも必要だ。例えば、「貞山運河の水質が汚い」と言われているのであれば、川底にたまったヘドロをメタン発酵させ、ガス灯や小規模発電・残渣の盛土材としての利用なども可能ではないか。

**［各テーブルでの話し合い］**

（まず3つのグループに分かれて話し合い、その後各グループからの報告（発表）がなされ、全体での討議が行われました）

- 貞山運河沿いの自転車道・ウォーキング。松林の中のキノコ・マツタケ・百合。
- 豊かな植物生態。
- 最初は舟運目的の運河築造という「人工物」からスタートしたかもしれないが、それ以降数百年にわたって、周囲の海・田園・松林などのさまざまな環境の中、土の堤体ありコンクリートの護岸あり、みんなが造ってきた。まわりの環境との関係など各地区で豊かな関わりを捉えなおしてみるべきではないか？
- 子どもたちが自然に手や足を突っ込みたくなるような「感性」に訴えられるような環境になれば……。
- 地元の方からも「あの海岸の松林は俺たちが１本１本植えていったものだ。そうして手間と時間をかけて育ててきたものだ」との話も聞いた。
- シジミ漁の漁場としての貞山堀でもあった。
- 最初は人工物でも長い時間の中で「二次的自然」という形で自然と同化してきて、〈自然〉とか〈人工〉とかいう区別も意味が無い形になってきている。
- 〈自然〉という言葉は〈人工〉との関係で表現されるもので、そこには「人の手が加えられている」との概念がある。まったく人の手が加えられていないものは〈原野〉と表現する。
- 人間の生活と密接にかかわっている日本の〈里山〉のような環境も〈自然〉と考えていい。その意味では、貞山運河も暮らしを支えてきた〈自然〉と言うこともできる。そういうものを抜きにして貞山運河を語ることはできない。
- 「雑草」とか「薬用植物」とかいうが、「役に立たない植物は無い」との考えもある。貞山運河沿いのさまざまな環境に合った植物がそれぞれに生育している。それぞれの土地に合った植物が回復できれば、その土地の方々の力にもなれるのではないか。
- 農業用水の排水先としての貞山堀の役割が大きかった。震災後、その機能が十分ではない状態になっている。
- その意味では「自浄作用」も含め、大きな自然の中での重要なサイクルを担っていた。


環境と
自然
防潮堤の計画があるって知らなかった
エッ、今年こっそりスタンドだって？
知らない人沢山いると思う
もっと知らされないと
それとも知らさない方が
都合が良いのか？


農業用水
期待感
加賀山
雪荒築港
元に戻すのではなく
新たな
運河を作りたい
はじめは人工物が
長い歴史の中で自然

• 貞山運河という1本の「線」だけではなく、そのまわりに百合が咲きキノコが採れる松林があったり、植物が育ちさらにその背後の平野部には農業を支える広大な田んぼがあり、そういったものを1本の貞山運河が支えている、という絵が見えてくる。

［**各グループからの発表**］

**テーブルA**

• 貞山運河に関係する各関係省庁を合わせたグランドデザインが必要。
防潮堤築造は生活安全優先で環境が二の次になっている。環境に配慮したデザインを考えて。
• 環境アセスメントでは、自然と折り合いをつけた計画で住民との議論が必要では。
• 貞山堀や蒲生干潟の再生など、防潮堤や県道嵩上げの中に埋もれてしまわないようにしたい。

**テーブルB**

•最初は人工的に造られたものでも長い時間をかけてそこで暮らす人々が関わりながら〈自然化〉してきている。生活と関わってきた貞山運河を残してほしい。
• 舟が通れるような形にしたらどうか。短い時間ではなく10年20年という時間をかけてでも。
• 〈環境〉というものを各人の生活とどう結び付けて形づくるのか？
いまはそれぞれの意見を集めることが大事だ。
• 場所ごとに現場状況が違っている。

**テーブルC**

• Bグループと同じように、初めは人工的に造られた貞山運河が長い歳月を経て〈自然〉となった。人の手が入っている里山環境も〈自然〉の概念のひとつと考える。
• 農業用水の排水先としての機能も重要。

［**全体討議**］

• 地区ごとに異なる貞山運河の状況や役割。長い時間をかけても各地区の特色を活かした復興を。
• シジミ漁や松林の中でのマツタケ採り、農業用水の取水や排水。地区ごとに関わり方がさまざま。生活背景や活かし方がまったく異なる。全長49kmの貞山運河の果たす役割・ダイナミックな生命のつながりが多様であることを実感した。
• 海岸線の位置が今と昔では違う。常に出入りしていることを忘れてはならない。以前運河沿いにあった石碑や並木も、地域や時代によって風景はみな異なっていることに注意が必要だ。
• 地域住民の意見を聞きながらじっくりと時間をかけて計画していくやりかたもあるが、県の土木部では既に復興計画の図面も作り、そのシミュレーションを行うまでになっている。その計画を変えるのが難しいことは確かだが、防潮堤出入口の詳細部分などに関してはできるだけ意見を言ってほしいとのことだった。「地域での意見とりまとめ」となると、各地さまざまで難しいところもあるが、このまま黙っていると県の描いた絵のとおりになってしまう。将来のあり方について提案するなら今だ。
• 12世紀の中国で描かれた『清明上河図』という絵巻物がある。川のそばで人が暮らし遊んでいる。舟運も盛んで、真中の橋ではすばらしい賑わいで多くの人が集まっている。これは、現実をそのまま写したものではなく「こういった形で自然と共生したら楽しいね……」というひとつの理想像を描いたものだろう。
我々も同じように「こういう環境がいいね。ここは桜並木、ここはサイクリングロード、ここは船着き場があって、舟で遊べる、舟で野菜を売りに来る……」とかいう、そんな「遊べる環境・理想の環境」を絵にしたり言葉にしたり、そんな作業をやっていきたい。中国のある町ではこの絵をもとにテーマパークを造ったりしている。
•「専門家の意見」ではなく一般市民による「個人としての意見の集大成」を目指したい。
• 市民としてのまちづくりの難しさはあるが、素人としての市民の小さい力を集めたこの地道な集まりを応援したい。
• 公園緑地の専門家としてこれまでやってきたが、60歳を超え今度は使う側の視点で考えたいとこの『考えるテーブル』に参加している。「つまらない復興計画」になってしまわないよう、専門家ではなく

一般の市民の声をぜひ出してもらってそれを施策に反映していきたい。

### [おわりに（主催者から）]

次回のテーマは〈防災〉。いまは「津波に対する防災」にあまりにも偏りすぎている。もっと幅広い視点で考えないと失敗する。地域・世代よってもさまざまに異なる考えをもっと集めた上でグランドデザインを描き、世界にも恥ずかしくないような計画を作っていきたい。

### [アンケートより]

- 昨年（2011年）から毎回参加しています。まだまだいろいろな意見がでるのではないかと期待しています。[70代]
- 津波の被災者です。しばしば、被害を受けた土地や新しく暮らす土地についてのアンケートがきます。そのように、沿岸に住んでいた方にアンケートを出してみるというのはどうでしょうか。答える人は少ないかもしれませんが、返事を出す程、熱意のあるかたの意見なら、学べることが多いのではないかと思います。[30代]
- 4年前に石巻を訪れたとき、貞山運河がここまであるのかとおどろいた気持ちがあり、このことにより、参加を試みた。改めて、復興について「タテ割り行政」の現実を知った。参加された方のご意見は現実的ですばらしかった。本日のテーマからすれば、防潮堤については複雑な気持ちであった。グランドデザインの有無から出発して議論の基盤を確かめたい。[70代]
- 防潮堤は、どうしても波の越えられない高さにする必要があるのか。一部波を越える高さでもよいのではないか。[60代]
- また来たい。[60代]
- 自分の実家である東松島市（元の鳴瀬町）の野蒜地区の運河が、貞山運河だと初めて知り、今の東松島市の現状を伝えたく参加しました。
貞山運河は、地域ごとに役割が違い、それぞれの地域にあった回復をしていかなければならないと思いました。
津波だけではなく、台風のことも考えなければいけないと思います。[40代]
- 貞山運河のことはよく知らないまま、子どものころから、近くに遊びに行ったり、親しみがあったため、今回、はじめて参加させていただきました。いろいろ知ることができてよかったです。さまざまな角度から今後の貞山運河の環境等を考えていくことは大事なことかと思います。[年代不明]
- 被災地を貫く歴史的なこの運河のことを何でも知りたかった。復興の中で、壁が出きたり、隣が大きく嵩上げされたりで、何だか窮屈な水路になってしまうのではないかと心配。行政主導のものだけになってしまわないように、運河について、何か言いたい人をすべて集め我らのサミット的なものを大々的にやったらいい。[50代]
- 貞山堀の活用から考えて公共の建造物ですので、津波のことは大切ですが地区のまちづくりをみんなで考えて結論を出すのが大切です。地域の方の意見を大切にして防潮堤、貞山堀の構造を考えてください。[70代]
- はじめて参加。みなさんの熱意に感じ入りました。10年以上前によくいった貞山堀のことを改めて想い出し、ただただなつかしい。[70代]
- 現在どうなっているか気になって参加しました。転勤族の家庭で仙台に来たので、土地勘がなく、地図など運河がわかるものが配布物として欲しいと思いました。[50代]
- 貞山運河の歴史に関わるような会を1度開催して欲しい。[50代]
- 貞山運河の復旧も時間をかけて、地域住民の意見を充分に開き、計画会議には住民の参加を依頼した方が良いと思う。[60代]
- 知人にすすめられての参加でした。既に過去のものとしか認識していなかったが、みなさんの熱い気持ちが伝わってきました。[60代]
- 流域に住む住民のためによい運河として残したい。震災前の環境も以前の運河の後に苦労してつくりあげたものであったのだから。[80代]

考える
考えるテーブル
いま貞山運河を考える
予告
7月18日(水)
18:00-19:30
テーマ「環境・自然」
入場無料 見学自由
被災地を貫く貞山運河は、
宮城県の誇る歴史遺産です。
これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか
次回 9月26日(水) 18:00- テーマは「暮らしと仕事」「景観」など考え中
問 TEL/FAX 022-222-0250 上原
主催 いま、貞山運河を考える会 / せんだいメディアテーク

環境と自然

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

被災地を貫く貞山運河（ていざんうんが）。
木曳堀、新堀、御船入堀、東名運河、北上運河からなる貞山運河は、旧北上川河口から阿武隈川河口までを結ぶ日本一長い運河であり、慶長2年（1557年）から明治17年（1884年）にかけてつくられた、宮城県の誇る歴史遺産です。

かつてこれらの運河は、それぞれに異なる役割を持ち、藩米や木材などの輸送のために、また野蒜築港運用のために開削されたものでしたが、近年では、農業用排水路、ボートの係留地として、また、サイクリングなどレジャーに活用される、地域住民のいこいの場でした。

これまで貞山運河に関わりのあった人、震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか。

2年目となる今年は、毎回テーマを設定し、さまざまな角度から考えていきます。

※ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御船入堀、新堀、木曳堀を指します。
※この企画は、ヒアリングした意見を集約し、自治体に提言する案をまとめるものではありません。
※当日は、イベントのレポートとしてウェブサイトに公開するために、会場の様子を写真撮影します。

**第3回**

## 「これからの運河活用と防災」

運河を活用した防災はどうあるべきか?
防災を考える時に、運河の活用や景観を考えなくてよいのか?

2012年9月26日(水)18:00－19:30
会場：せんだいメディアテーク　7階スタジオa
入場無料、直接会場へ

次回　11月28日(水)18:00－19:30「暮らしと仕事」「観光・遊び」などを予定
【主　催】いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク
【問合せ】TEL／FAX：022-222-0250（上原）

※この用紙はリサイクルできます。

**考えるテーブルとは**

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場を「考えるテーブル」と題してオープンスクエアに開きます。

http://www.smt.jp/thinkingtable/2012

# 2012年 | 第3回 | これからの運河活用と防災

**話題提供［1］**

**豊嶋純一氏、田川浩司氏（まちづくり部）**

**「宮城県内各被災自治体の復興計画」**

**震災復興計画の整理**

各自治体ごとに策定された復興計画の内容はそれぞれ異なるが、もちろん〈防災〉についてはすべての自治体で記述している。

レベル1（100年～150年に1度の津波）：生命・財産を守る=〈防災〉

レベル2（1000年に1度の大津波）：人命は守るが経済的損失については軽減のみ=〈減災〉

**堤防についての国の考え方**

レベル1の津波に対して⇒TP7.2mの海岸防潮堤（ただし、「避難」を前提）

（注：「TP」とは「海抜高度」、「標高」の意味）

**堤防についての県の考え方**

国の「レベル1の津波に対する⇒TP7.2mの海岸防潮堤に加えて、レベル2の津波に対する⇒県道嵩上げ・貞山運河堤防など「2線堤」による多重防御。（ただし、「避難」を前提）

貞山運河の復旧計画を見ると（県河川課ホームページ2012年5月現在）：北北上運河 TP1.53m、南北上運河（東松島付近）TP4.5m、北上運河 TP4.5m、東名運河 沈下分嵩上げ程度、砂押川 TP5.0m、南貞山運河 TP2.4m、中貞山運河 TP3.7m、北貞山運河 TP3.7m……など、地域によって堤防復旧の高さはいろいろ。

**堤防整備の考え方**

震災前には「水門を閉じて被害を防ぐ」考え方だったが、津波襲来時に水門が動かなくなり内陸に溜まった海水や雨水が排水できなくなったことを教訓に、「水門ではなく堤防で守る」方針とし「排水機能を持った壊れない堤防」を造る。

**貞山運河の防災機能**

貞山運河は津波に対する防災の役目を果たしたと言われている。本来、貞山運河は水運を目的として築造されたものだが、海抜1m程度の仙台平野の水田の排水を受け持ち稲作を可能にしたように、「内陸に溜まる水を排水する」機能も持っていた。しかし、震災以前から仙台平野では20～30年に1度は大規模な洪水被害に遭うことに悩まされており、貞山運河への排水能力をもっと高めたいとの要望もあった。津波だけでなく「内水排水」機能にも注目すべきだ。

**宮城県河川課から聞いた話**

〈減災〉効果があったのか？⇒「あった」と考えているが、具体的には地域により状況が異なるので、シミュレーションで確認する業務を専門業者に委託予定で年内には結果が出るはず。

貞山運河を活用した地域のあり方⇒地域・環境により内容も異なるが、景観・暮しも含め前向きに検討していきたい。

**話題提供［2］**

**佐藤彰男氏（貞山運河の魅力再発見協議会/株式会社東日本リサーチセンター代表取締役/宮城大学事業構想学部客員教授）**

**「『貞山運河の魅力再発見協議会』について」**

**経緯**

社団法人東北ニュービジネス協議会は、新産業創出やニュービジネスの振興・育成を図ることを目的に設立された団体で、その中に自主的な研究や交流を図るいくつかの「部会」がある。

そのひとつである『海洋ニュービジネス研究部会』は、海に囲まれた島国日本で海洋資源を利用した新しいビジネスの形を模索し、「食べ物」、「海洋廃棄物」、「海と情報通信技術（ICT）」、「レジャー・観光」、「海と教育」などをテーマに研究を行ってきたが、さらに、メンバーが議論を重ねていく中で、宮城県の誇る歴史遺産「貞山運河」にテーマを絞り、調

査研究に取りかかることになった。
「貞山運河」という地元の地域歴史遺産に注目して平成15年に活用研究に着手。それから4年かけて平成19年3月に「提言書」にまとめた。ちょうどその年の1～2月、国土交通省港湾局で『運河の魅力再発見プロジェクト』の公募があり、応募したところ全国8ヶ所の中のひとつとして認定を受けた。
同港湾局の助成金を活用するためには、受け皿となる活動母体として「協議会」の設置が必要条件となり、沿川の7市2町の9自治体と民間団体9者の計18者で『貞山運河の魅力再発見協議会』が発足。
初年度には250万円の予算が付き貞山運河のホームページを作成、貞山運河を魅力あるものとして創っていく事業が始まった。
しかし、国土交通省の不祥事問題などにより、2年目以降の活動に対する助成はまったくなくなる。
そこで『リレーシンポジウム』の開催、『(仮称)貞山運河の利活用マスタープラン』の策定など、ほとんどの活動を手弁当で行うこととなった。なお、『(仮称)貞山運河の利活用マスタープラン』は、後に『貞山運河の利活用指針』と改称されて作成される。

**『リレーシンポジウム』について**

『リレーシンポジウム』は「木曳堀」のある名取市(仙台空港ターミナルビル)、「新堀」のある仙台市(戦災復興記念館)、「御舟入堀」のある多賀城市(東北歴史博物館)の3カ所で開催され、多くの方々に貞山運河に対する思いや考えを聞かせていただいた。
その後、「北上運河」のある石巻市、または「東名運河」のある東松島市での開催を予定していたが、その矢先に東日本大震災にあった。

**『貞山運河の利活用指針』について**

貞山運河は歴史遺産・防災・環境保全・観光など多くの側面を持っており、それぞれの地域で息づいているが、それぞれがバラバラ動いたのではかえって魅力を失ってしまう……、との危機感を抱き、シンポジウムとともに、『貞山運河を利活用するための指針』を作成することにした。
平成23年2月現在、全体の9割、第4章の途中までできていたが、東日本大震災で内容を大きく変えざるを得なくなった。平成23年2月現在の内容は概ね次のとおり。

第1章:貞山運河の現状と課題
1.1 貞山運河の概要
1.2 貞山運河の現状と課題
第2章:貞山運河の利活用の取組み方針
2.1 利活用の方針
2.2 整備方針
2.3 情報発信の方針
第3章:連携のあり方
3.1 運河連携
3.2 流域連携
3.3 広域連携
3.4 産学官民連携
第4章:推進体制
4.1 貞山運河の利活用推進組織の必要性
4.2 新組織のイメージ
4.3 新組織に期待される役割
4.4 新組織で早期に検討すべき主な取組み

• 協議会各自治体が被災し、担当職員多忙のため現在休会状態であった。その後、平成25年1月に『貞山運河の利活用指針』が完成し、第4章の構成が上記のようになった。

**〈防災〉について**

**「防災機能を持った運河の整備」**

河川管理者は、拠点整備を行うとともに、船舶の安全航行確保のため、さらに、大型化した船舶に対応した水位確保のために、ヘドロや堆積土砂の撤去や岸壁と航路及び後背地の確保を行うことが望まれる。
その結果として環境保全のための水流の復活も可能となる。このほか、不法係留の船への対応も課題だ。
治水安全向上のためには、河川管理者が行う護岸整備と併せて、その前後に親水護岸整備を行い、地元自治体やNPOなどが積極的に管理に関わるなど共同で親水空間を演出していくことが望まれる。

［**各テーブルでの話し合い及び全体討議**］

（まず３つのグループに分かれて話し合い、その後各グループからの報告がなされ、全体での討議が行われましたが、この記録の中では、「話題にのぼったテーマ」ごとに集約・編集して記載しました）

## 津波に対する防災

### 松林

- 海岸の松林のおかげで建物が流されずに済んだという津波体験からいっても、防災林としての松林の再生を希望する。
- 松の木が流され二次被害を起こしたのは地下水位が上がっていて松の根が浅くなったことも?
- 松林に人が入らなくなって管理が不十分になったために松の根の生育が妨げられた。
- 松だけでなく多種類の樹木を貞山運河堤防沿いに植林し公園化することも考えたい。
- 堤防に樹木を植えるのは異物を入れることになる。桜も同じだが、堤防の幅を広げ安全な部分に植えるのはいいだろう。
- なぜこれまで「松」だけが植えられてきたのか？
- 松は塩に強いということで植えられたと聞いたが、実際の荒浜の松林は現在、ほかの樹木も生えていて半ば雑木林化していた。
- 海岸部では松くらいしか育たない。松が定着した後、ほかの樹木も育つようになる。
- 津波を完全に防ぐことは困難。松林など「自然の構造物」の力を使うべき。
- 所属する団体では植林用のマツやタブの木を用意している。防潮林の植林など連携していきたい。

### 2011.3.11での貞山運河の防災効果

- 昨年（2011年）の津波の際、貞山運河はどのような効果があったのか？
- 県も「効果あり」とはしているものの、はっきりしないのでシミュレーションで確認するとのこと。
- 津波のスピードを遅らせるような「減速効果」はあったろう。
- 津波の第１波が貞山運河で１回落ち込んで弱まった上、横に流れ時間も稼げた。引き波の時にもそこでまた１回落ちて、助かった人もいたようだ。
- 岩沼より南、運河が無い所と北の運河がある所では被害の状況が違うようだ。しかし、閖上のように「貞山運河の水が引かない限り津波は来ない」との思い込みで避難が遅れてしまった例もある。「減災」どころかかえって被害を大きくさせたのも事実だ。
- 電源喪失で貞山運河へのポンプ排水ができなかった。昔は手動運転だったが、いまはすべて電気で制御しており停電によって機能しなくなる。

### 防潮堤

- 六郷七郷など海のそばの広大で平らな仙台平野の田んぼは、全国的にも魅力ある貴重な存在で、その田んぼを守るには内水の排水も重要。それをやらないと稲作ができない。
- 明治の頃、仙台駅東に下宿していた島崎藤村が毎日荒浜の潮鳴りを聴いていたとのこと。潮の音の変化を聴いたり、波が引いていくのを見たりする、自然からの警告への注意が重要。高い海岸防潮堤で海が見えなくなってしまう危険性もある。松に当る風「松籟（しょうらい）」を聴く風雅さも失ってしまう。コンクリートの防潮堤でかえって海岸線が浸食されるおそれもある。「防潮堤」ではなくむしろ「防潮運河」を提案したい。
- 「海が見えなくなってしまう」ことによる危険性の方が大きくなるかもしれない。
- コンクリートで堤防を造っても千年ももたず、今回の例を見ても弱点がある。自然のままで何とかできないか？
- 「自然のままに」とは言っても、友人を亡くした経験から言うとそのままにしておいて死者が出るのは忍びない。
- 防潮堤を造るなと言っているのではない。それを越えたものを防潮林のベルト地帯で守る「多重」防御でやるべきと言っている。

### これからの貞山運河の防災

- 貞山運河の防災に対して各市町村バラバラな上、県の考え方も一貫していない。場所ごとの違いはあるにせよ県レベルでの調整が必要ではないか？
- 海岸防潮堤は100年に１度程度の津波や高潮に対応するもので国が対応。県河川課は「貞山運河の復旧」で、もともとの高さが場所ごとに違うから以前より多少高くなるところもあるにせよ基本的には元に戻す〈復旧〉が原則。その〈復旧〉の形は場所ごとに異なり、各自治体それぞれの地域性があり各自

治体の防災計画もそれぞれ異なる。新たな要素を付け加える〈復興〉はこれからの課題だ。

●「施設を使うことが重要」とのことだが、〈防災〉あってこそ使うことが可能になる。魅力があっても、「使って大丈夫、安全だ」との前提がないと使うことはできない。

●津波対策用の堤防や護岸工事という方に金を使われると、貞山運河の昔の形が変ってしまう。「水路」や「洪水時の水の流れ」としては以前から機能していたが、「津波を防ぐ」目的で改造し始めると大きく変ってしまう。〈防災〉とは別な形で、自然を残すイメージを大切にしたい。

●「貞山運河で津波を防ごう」というのではない。たまたまあった貞山運河が津波防災の役割も果したというだけ。貞山運河で津波を防ぐということに集中してしまうと具合が悪い。大きな津波を防ぐのは防潮堤なり嵩上げ県道なり盛土なりほかの方法で対応すべきで、そういうことを十分やった上で、貞山運河は「防災機能という面も兼ねた歴史遺産」として残すべきだ。

●安全確保のためには「浚渫（しゅんせつ）」も必要だろうが、ヘドロも含めた環境の中で魚などの生物が生息していた。「浚渫」などであまりきれいにしすぎると生態系が変わってしまい生物が生きられなくなってしまうことにも配慮が必要だ。

**海岸浸食に対する防災：仙台湾における砂浜海岸浸食**

●遠く離れた地域での工事の影響が仙台湾の砂の移動に関係し、長い時間をかけて砂浜海岸を浸食してきている。海岸での防災にも配慮する必要がある。

●浸食から砂浜を守る「海岸保全」の問題も重要だが、荒浜などの海岸の砂浜が浸食されているかどうかの検証は長いスパンできちんと行う必要がある。

**洪水に対する防災：雨水排水施設としての貞山運河**

●昨年（2011年）の津波災害の印象が強く〈防災〉というと津波を思い浮べがちだが、貞山運河にとっては「雨水排水」、大雨時の洪水を防ぐ機能が重要だ。荒浜では震災前から大雨の際、貞山運河に排水できず沿線の住宅がたびたび浸水していた。仙台市の沿岸部一帯が災害危険区域に指定され、住居の建築が禁止されたとはいっても無人の地になる訳ではない。これからもきちんと雨水排水機能を確保するよう配慮願いたい。

その際、今回の津波の後、荒浜の海岸部に出現した「水路」に注目してほしい。津波の引波によって砂浜がえぐられて、荒浜集落の北側に貞山運河から海に直結する水路が出現した。これは、貞山運河が造られる明治以前にあった「赤渋堀」という名の水路の河口が再現されたものである。

震災前の仙台平野の雨水排水は広い仙台平野の雨水がすべて貞山運河で受け止められ、北の七北田川、南の名取川、ふたつの河川の河口経由で海に放流されてきた。これはかなり無理があり、その結果、荒浜や南蒲生での排水不良・浸水という形で現われていた。たまたま昨年（2011年）の津波後の強い引波によって強引に作られてしまったとはいえ、自然の法則から言えばむしろそちらの方が「自然」な形の「仙台平野中央部から直接海に向かう流れ」に注目すべきだ。

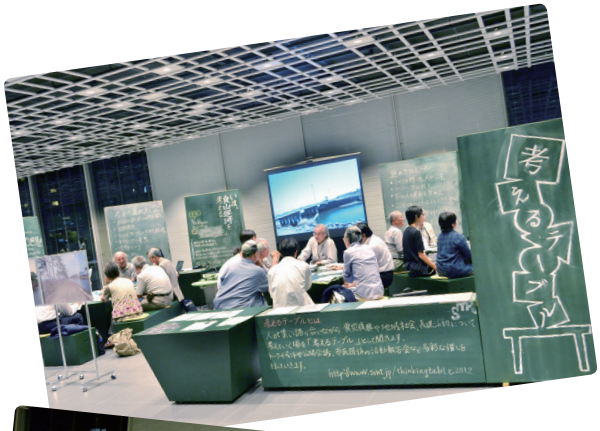
今後貞山運河に設けられる水門によって、荒浜地区の排水が遮断されてしまう危険性もあるという。現在、県と仙台市とで雨水排水計画について調整中と聞く。七北田川・名取川のほか第3の排水先、昔の「赤渋堀」のように、仙台平野を横切る貞山運河の中央部から海に直結する排水路について考慮願いたい。

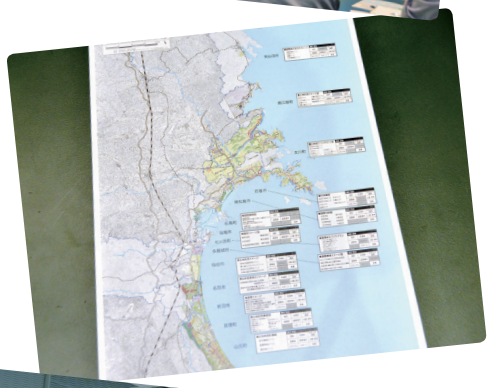
●常時設ける水路だけでなく、昭和61年の大雨時に吉田川の堤防を切ったように、非常時に緊急避難として「ヒューズ」的に堤防を切ることはあり得るだろう。「歴史遺産」とはいっても後で修復することは可能だ。

●災害の拡大を防ぐ、という対応だろう。

［アンケートより］

- ボランティア活動として農地の復旧活動、農業支援活動にたずさわって行く上で、多くの方の意見を聴くことができた。さまざまな意見に触れてよかった。［10代］
- 話題提供があってグループの話し合いの流れは良かったと思います。［70代］
- 全体を考えない個人的・嗜好的な意見ほど面白い。［60代］
- 堀への防災対策としていろいろつくってしまうと景観が失われてしまうと思います。
いろいろ考えられているのでびっくりしました。これからはもっと興味を持って、また、参加しようと思います。［20代］
- 津波と貞山運河について基本的な考え方などを聞きたい（過去の小津波の効果も含めて）。［70代］
- 防災を中心に議論があったが、文化遺産として現状保存が望ましいと思う。防潮林の植林などを積極的に行う。行政の復興など関心を持って行くとともに、この会のようなものに積極的に参加したいと思う。［70代］
- テーマが大きすぎて、何の話をしたいのか分からず、グループの話もバラバラでどうなのかと思った。防災にしても、排水の件か、津波の件か良くわからず、1回の中で話をするのは無理があるのではないか……。［70代］





せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

被災地を貫く貞山運河（ていざんうんが）。
木曳堀、新堀、御船入堀、東名運河、北上運河からなる貞山運河は、
旧北上川河口から阿武隈川河口までを結ぶ日本一長い運河であり、
慶長2年（1557年）から明治17年（1884年）にかけて
つくられた、宮城県の誇る歴史遺産です。

かつてこれらの運河は、それぞれに異なる役割を持ち、
藩米や木材などの輸送のために、また野蒜築港港運用のために
開削されたものでしたが、近年では、農業用排水路、ボートの係留地として、
また、サイクリングなどレジャーに活用される、地域住民のいこいの場でした。

これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか。

2年目となる今年は、毎回テーマを設定し、さまざまな角度から考えていきます。

## 第4回 「貞山運河と暮らし」

400年貞山運河と共に生きた暮らしを復元し、
もう一度運河と共に生きる方策はあるのか？
これから貞山運河は地域の生活の中にどのように蘇るのか？
運河と共存した新しい暮らしを考えよう。

2012年11月28日（水）18:00－19:30

会場：せんだいメディアテーク　7階スタジオa　入場無料　直接会場へ

次回　12月19日（水）18:00－20:00　テーマ「貞山運河の遊びと観光」

【主　催】いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク

【問合せ】TEL／FAX：022-222-0250（上原）

※ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御船入堀、新堀、木曳堀を指します。
※この企画は、ヒアリングした意見を集約し、自治体に提言する案をまとめるものではありません。
※当日は、イベントのレポートとしてウェブサイトに公開するために、会場の様子を写真撮影します。

### 考えるテーブルとは

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場を「考えるテーブル」と題してオープンスクエアに開きます。

http://www.smt.jp/thinkingtable/2012

考えるテーブル

※この用紙はリサイクルできます。

# 2012年 | 第4回 | 貞山運河と暮らし

**400年貞山運河とともに生きた暮らしを復元し、もう1度運河とともに生きる方策はあるのか？**
**これから貞山運河は地域の生活の中にどのように蘇るのか？**
**運河と共存した新しい暮らしを考えよう。**

**話題提供［1］**
**西大立目祥子氏（青空編集室／フリーライター）**
**貞山運河沿線での暮らし── 昔の写真と記録から**

貞山運河は280年かけて完成された。これだけの歳月をかけ、ひとつの事業が次の時代へと受け継がれていったというのは桁外れのことではないだろうか。
貞山運河のほとりでどんな暮らしがあったのか。水の流れがあることによって運河の両脇で人々の暮らしが生み出されていった。消えかかったり忘れかかったりしているものをもう1度掘り起こし記憶を語り継ぎ未来につなげていきたい。
「ジョレン」を使った貞山堀でのシジミ漁の様子を写した20年前の写真がある。明治以来シジミ漁が盛んで大量に採れていた。1日3時間の短時間の漁でも疲れて「あとは寝ている」と言っていた。採ったシジミを深沼橋南側の火の見櫓の所に集め、石場の女の人たちがそれを背負ったり荷車に積んだりして仙台の町に売りに行った。相当売れたらしい。漁協で毎年百万程の金をかけて稚貝を放流していたが、だんだん採れなくなってきた。
写真家、小野幹さんが撮影した写真は貞山堀の堤防沿いの道を墓参りに出かける情景。深沼橋の付近を子どもをおぶったり、やかんを持ったりして浄土寺のお墓に出かけるところ。こうやって人々は堀沿いの道を歩いて墓参りに行ったり買い物に出かけたり……、という暮らしをしていた。
そして同じ場所の震災後の写真をみると、以前の写真にあった、暮らしと町並みは消えてしまった。
20年ほど前『ふるさと七郷』という本をつくる際、荒浜の方にお話を聞いた。その方のおばあさんが荒浜に嫁入りした頃、明治15年から始まった貞山運河の改修工事に駆り出されたという。掘った土はモッコでかついで堀の東側に積み上げ、さらに馬で200mほど離れた海側に運んだ。それが今の海岸通りの原型になっている……、とのことだった。貞山運河を造るにあたって荒浜付近の15軒の家が移転しなければならなかった。その際、貞山運河の東側は荒れ地でほかの所に移らざるを得なかったそうだ。
『高砂の歴史』という本によると、今の貞山運河が開かれる前、明治3年のころ、閖上から蒲生に別の運河が開かれていたという。点在していた沼や堀を繋いで繋いで、1年くらいで航路が整えられた。
貞山運河を調べたら、内陸側に「もうひとつの運河」があったことがわかったという。そのことを記録している石碑も蒲生に残っていた。
この貞山運河を行き来していたポンポン船や蒸気船について蒲生に住んでいた年配の方々から話を聞いた。焼玉エンジンで一日一往復の定期運行をしており、松島までの修学旅行の団体も受け入れていた。米を運ぶ船も岩沼から来て、帰り道は塩竈から魚を仕入れて荒浜で売っていた。
人々のために知恵を働かせて商売していた人たちがいたのだ。
地元の人たちに「シンザンモータ」と「ニランツァンモータ」とよばれていた2艘の船が蒲生から塩竈に行き来し、よくそれに乗って鹽竈神社にお参りに行ったり花見に行ったりしたという。雨の日には船の上に赤い旗がはためいて、その日はお休み、という話を聞き、風の強い日に船が波に揺れながら赤い旗をはためかせている光景を思い浮かべた。
戦前、荒浜小学校の先生が『七郷郷土読本』という本を作っている。その先生はつづりかたなどをやっておられたようだが、地元の子どもたちにいろいろなことを伝えようとこのような本を作られたのだろう。
私たちはこのように暮らしの記憶を次の世代に繋い

でいく必要があると感じる。その中にある『テイザンボリ』という文章がいい。その文章を紹介する。

**『テイザンボリ』**

今日は私たちの遠足です。私たちは貞山堀をモータで東宮（ひがしみや：塩竈の東南東、宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜地区にある東宮神社）に行くのです。お空が晴れて気持ちようございます。私たちはうれしくなって唱歌を歌い始めました。私のお母さんやみんなのお母さんが橋の上でにこにこ笑っています。しばらくたつと船が動き始めました。バンザイ！と誰かが大きな声で叫びました。私たちも大きな声でバンザイ！バンザイ！と言いました。うれしくてたまりません。橋の上に立っていたみんなの顔がだんだん小さくなってしまいました。もうお母さんの顔も見えません。川の水がきれいに澄んで両側にある松の影がきれいに映っています。どこかでかっこうどりが鳴いています。松林の中に赤く見えるのはツツジの花でしょう。

しばらく行くと船が止まりました。どうしたのでしょう。浅いから止まったのです。だから時々掘らなければならないのです。掘るのですか？ そうです。この貞山堀もずっと昔みんなが掘ったのです。先生が小さい時ですか？ いいえ先生もみんなのお父さんもお母さんも生まれていません。生まれていないずっと昔で、その頃は自動車も電車もありませんし、立派な道も無くみんなの知っている鹽竈神社に行くのも大変な難儀をしたのです。だから大きな物や重い物などはとても運ばれませんでした。それでどうにかしてここを川にして船を通したらとお考えになったのがそのときの仙台の殿様伊達政宗公という偉い方です。それで貞山堀という名をつけたのだそうです。

そして大勢の人がのみや唐鍬で長い間かかってようやく掘ったのです。ごらんなさい。こんな大きな川が閖上の向こうから私たちの荒浜を通って塩竈まで掘ってあるのです。今のように便利な機械などありませんでしたから、どんなに難儀したかわかりませんね……と先生が言って私たちを見てにっこりお笑いになりました。初めて聞いた貞山堀の話。ここが掘った川とはどうして思えましょう。私たちはきれいな川をじっと見ながら行きました。

（以下略、『七郷郷土読本』より）

これを見て感じるのは、貞山堀の水が澄んでいて本当にきれいだったということ。
また、子どもたちの文章にある「松の木が水に映り込む」というのは、どんなに美しかったか、と思う。昔の記憶を掘り起こしてその豊かさを伝え、この貞山堀のきれいな水辺を何とか取り戻せないものだろうか。

**話題提供［2］**
**貴田喜一氏（荒浜再生を願う会）**
**荒浜住民から**

若林区荒浜で生まれ育ち漁業を営む人、プレジャーボートを所有し貞山運河に係留していたが津波で流されてしまった人、20 ～ 30年前に荒浜に移り住んだ人など、荒浜で暮らしてきた人6名が今日参加している。
荒浜は政宗が貞山堀を開く前からあった集落地。貞山堀ができてからは生活に直結していた。淡水と塩水が混じる汽水域でシジミやハゼなどが獲れ、海水浴の後は貞山堀の水で体を洗い砂を落とした。底が見えるほどきれいだった水が汚れ始めたのは、貞山堀の水門が南蒲生に設けられ、それが閉じたままにされたことが大きい。それまで潮の干満で行ったり来たりしていた水の流れが止まってしまい、堀の汚れが吐き出せない状態になってしまった。さらに田んぼの排水も原因のひとつ。排水のため4ヶ所のポンプ設備ができたが、堀がコンクリート化されたこともあり、ポンプ場から流し込んだ水で貞山堀はどんどん汚れた。田んぼの代掻きの時には生き物もさぞ息苦しかったろう。また貞山堀に流れ込む雨水でしょっちゅう洪水も起きていた。
蒲生から北側の貞山堀は、内陸に掘り込んで造った仙台新港のために失なわれてしまった。貞山堀そのもののいいところがないがしろにされ、歴史や環境よりも「開発優先」となったものだ。そこに生活している住民などの意見も聴きながら進めていかないと将来しこりが残ってしまう。
私たち仲間のレクリエーションとして、貞山堀を使い松島の桂島や馬放島などに家族連れで船で出かけて楽しんでいた。そんな思い出も残っている。
安全対策を十分備えた上でのことだが、自分たちのふるさとなので何とかそこに住まわせてほしいとお願いしているところだ。仙台市の復興方針に逆らって申し訳ないが、荒浜での現地再建をめざして、ふるさとを再生させたいと考えている。

**［各テーブルでの話し合い及び全体討議］**
（まず3つのグループに分かれて話し合い、その後各グループからの報告がなされ全体での討議が行われました。この記録の中では、テーマごとに集約・編集して記載しました）

**むかし**
**生活**
- 墓参りなど荒浜の昔の写真を見て懐かしく胸がいっぱいになってしまった。貞山運河についてこんなに多くのみなさんが集まって話をしてくれるのがとてもうれしい。
- ハゼ釣りや海水浴などで荒浜に親しんだ。
- 堀の底からゴカイを獲ってそれでハゼ釣りをしたり、そこで洗濯する人もいた。
- 80歳近くの人が子どもだったころ、貞山堀に張った氷の上でスケートをしたとのこと。夏には海で泳いだあと貞山堀の水で体の砂を洗い落とした。大きい子が小さい子の面倒を見て、みんなで仲よく泳いだそうな。
- 荷車やリヤカー程度が主で馬車ですら貴重な運搬手段だった昔に、貞山堀はじめ多くの水路が舟運のための「運河」として機能していた。
- 荒浜で漁業を営んでいる。貞山堀は遊び場でもあり、シジミやゴカイ採りで小遣い稼ぎをし、ウナギの稚魚の漁も行う生活の場でもあった。
- 海には5ヶ統の定置網を仕掛け、秋のサケ、夏のイワシ、マンボウなども獲れた。稚魚が満潮で海から川を遡って夜には光に集まってくる。貞山堀は海と川が繋がっていて海水と淡水が混じり合い豊かな漁業資源があるところだった。
- 喘息気味の子どもの健康を考え、海のそばの荒浜に移り住んで30年。干潮の時の貞山堀の底を掘ってゴカイを採ったりスルメを餌にしたり松林の中の棒切れを竿にして子どもたちと貞山堀やその近くの

沼などで釣りをした。水はきれいだったし、石積み護岸の石の隙間をつついてカニを捕ったりした。子どもたちを遊ばせる場所としては最高だった。

• 以前の生き生きとした暮らしが震災で無くなってしまった。

• 海があって川があって夏涼しく冬暖かく暮らしやすいところだった。

• 貞山堀の自然が豊かな恵みを与えていてくれた。行政はそこのところをわかっていない。みなさんの力を借りながら貞山堀を元のように戻したい。

• 四季折々の風光明媚な美しい貞山堀の風景がすごく懐かしい。変わり果ててしまった運河だが、何とか元に戻ってくれたらと思う。

**松林**

• 松林の中にはアミタケ・カンタケ・キンタケなどのキノコも育ち、野生のランもあった。

• 震災前、運河から海側では番線を使って車の出入りを制限していたが、それを番線で繋ぐことをやめ杭だけにしたらどうか。人は入れるという形にすれば、松林の中はキノコもハマボウフウもあり、人がいっぱい入って松の木の根元を踏み固める。人が関わる環境をなくしてしまったのも津波の被害を大きくした要因のひとつと考える。そんなことも含めて連携を考えたい。

• 四駆の自動車がアジサシの卵を踏みつけてしまうのを防ぐため車を入れないようバリケードを設けた。

• 貞山堀を造る一方、松の木の植林もしていた。70歳代後半の人たちは「植林作業のご褒美にビスケットをもらった」などと話している。

• 植林は最近まで行われてきた。

• 植えた苗木が定着するまで大変だった。

• あれだけの松林が、1本1本自分たちの手で植えていったというのはすごいことだ。

• 堀沿いの松の木が水面に映り、ダークグリーン・ダークブルーが本当に美しかった。

**石積み護岸**

•石積み護岸からコンクリート護岸に変わったこともカニやゴカイなどの生き物の環境に影響を与えた。

• 生物の生育には農業排水に含まれる農薬も影響しているかも。

• 農業側で貞山堀などの水路と関係なく水田を改良してしまった。水路が深くなってそれまで30～50cm程度だった田んぼとの落差が1mにもなり生息環境が激変した。魚が戻っていかないと田んぼの下草も含めて生態系が大きく変わった。

•荒浜地区内はコンクリート護岸だったが、そこから外れた石積み護岸の所にはカモなどの鳥も来ていた。

**歴史**

•政宗が仙台を開府する前から荒浜に人が住んでいた。

• 1601年から仙台の城下町が造られているが、それ以前にも、ズブズブの湿地帯が広がる沖積平野の中に集落を造り、海沿いの荒浜などに人は住んでいた。

• 貞山運河のことについてその「文化」を教えることはこれまで何もやってこなかった。だから、貞山堀は何のために造ってどんな歴史があったのか、という部分が子どもたちもわかっていない。

•いや、荒浜小学校の先生方はこれまでも貞山堀について子どもたちに教えることはやってきた。

• 荒浜小学校の校外学習で月に2～3度観察会もやっていた。

## いま

**住民**

• 地元のみなさんの話は重くこたえる内容だ。7m超の大防潮堤ができ潮風が遮られるようなコンクリートで守られた貞山堀で本当にいいのか？「松籟（しょうらい）を聴く」というような環境ではなくなってしまう。

• 住民の方には「もうそこには住みたくない」という人も多いようだが、市ではどうか。

• 市では沿岸部一帯を無人化して「海岸公園」にと考えているようだ。確かに現地再建を希望する人たちは少数派で、大多数の住民は跡地を市に買い取ってもらって移転し、市は買い取った土地を海岸公園に整備する方針のようだ。しかし、その形が果たして「いい」風景なのかどうか？

• 先程見た昔の荒浜の写真でも「生活」が感じられるが、震災後・がれき撤去後の写真は、きれいに整備されてはいても人の姿は無い冷たいものだ。人の姿の無い風景というものは、そこを訪れた人にとっても果たして「いい」ものなのかどうか？

•「ここを海岸公園にする。そしてどこかの業者さんが草を刈り、門の開け閉めをして管理していくことになる」のかもしれないが、そういう形の貞山運河に「あそこがいいから行ってみよう」と思うようになる

だろうか？それを少し考えてみたい。

●窓ガラスが壊され草ぼうぼうとなって空き家が荒れ果てていく光景をこれまでいくつも見ている。田んぼを耕す人がいなくなって、あっという間に木が育ってしまい元の田んぼに戻せなくなってしまう。そんな情景と同じ危惧がある。

●「生活感」があるということも大事だ。やっぱり人がいてこそ貞山運河も生きてくる。

●戻った人たちのことを考えずに話を進めていったらどういうことになるのか？

●先人たちが貞山運河を手と鍬で掘った思いを考えると、地震や津波など悲しいこともあろうが、豊かな自然に惹かれて海辺に戻り住んだ人たちが荒浜などの海辺の集落を築いてきた。

●三陸も含め沿岸部みな同じだ。

**事業の進め方**

●今年（2012年）の夏から秋にかけて海にはずいぶん泳ぐ人が来たが、そのほか貞山堀にハゼ釣りも来た。結構な数が揚がっていた。しかし海岸はどこへ行っても「工事中立入禁止」。だから、工事の仕事が始まる前の早朝にでかけて行って、帰りはぐるーっと迂回して帰ってこざるを得なかった。

●今の進め方を見ると防潮堤の工事がどんどん進んでいるが、「そんなに早くやらないとダメなものか？」、「全体の形が見えていないのに部分的に進めていってしまっていいのか？」という疑問がある。そこに住んでいる住民のみなさんの意見が行政に反映して行政がそれを実施するという形が大事なのに、そこのところが「非常事態」ということで欠け落ちてしまっている。

●防潮堤など国の直轄事業はどんどん進んでいる。荒浜地区住民への連絡はないが、2012年11月28日も七郷地区連合町内会主催で貞山堀に関して説明会が行われている。荒浜に無関係の荒井地区住民や、もうそこに住む意志のない住民に対して説明されても「住民合意」という形にはならない。

●「津波シミュレーション」というのも問題だ。仙台平野に降った雨は海に向かって流れるが、県道嵩上げによってその水はどうなるのか？
その点を考慮せず「津波が道路の上を乗り越えていくだけ」という設定のシミュレーションは機械的で不十分なものである。

• 貞山堀の歴史文化を伝え活かしていくためには、住民が入るべき。人が住まなければいけない。そこに住めるような形にする必要がある。移転希望の人たちの意見が優先されてしまい、現地に住み続けたい人たちの思いが市や国などの行政に通じていない。「計画のための復興」、「予算のための復興」になってしまっているのは問題だ。

• 5年という短期間で復興すると言っているが、そのために住民の意見も聞かずに進めるなどいろいろな無理が出ている。

• 5年間で復興事業を実施するというのは、その期間を超えてしまうと国の金が使えなくなるという事情もある。

• 「100～150年に1度の津波への対応」は必要だとしても、一気に7m超の堤防を早急に造る必要があるのか？
1回立ち止まって地元の意見も聴いて少し時間を置いてもう1度考えるべきだ。

• しかし、1回住まわせたらそれを戻すのは難しい。

• 行政としては何かあった場合、それが悪かったと批判されるのを恐れている。

• 役所は「市民の命を守る」立場だ。これからのことを考えた場合、再び人の命が奪われることがあってはならないという姿勢をとっている。若い親たちとしても、また命に関わることがあるかもしれないと思うと戻る気持ちには、なかなかなれないだろう。しかし、海が好きな人たちもいるし貞山堀が好きな人たちもいる。こういう震災が起きたいま、戻りたいと思う人もいる中で、仙台市というブランドを考えたとき、あの地域をいったいどうやっていくべきか考える機会を作らなければならない。住みたいという人の気持ちも尊重してあげたい、けれども未来もあるし歴史もあるし、仙台市にとっても未来に向かってどれが一番いいのか、ということを全部テーブルにあげて考えたい。

• 貞山運河は市が関わる部分は少ないようだが、県道嵩上げにしても復興予算消化が優先になってしまっている。そこで暮らしの中で長年培われてきた地域文化を捨て去っていいのか？

• 貞山堀そのものはこれまで生活圏の中で存在してきて、住民が張り付いていなければ何もない川となってしまう。住民が戻ってきて故郷とおもいながらやっていくのだから、行政ももう少しきちっとやってください、という形が必要だ。そうしないと「ふるさとの川」にならない。いま危険区域となっている荒浜地区のみなさんがみな離れていってしまうと、海水浴場だって一時的に人は来たとしても、あとはほとんど来てくれない「忘れられた川」になってしまう。生活圏を区切ってしまうのはよくない。ある程度選択可能にして「私はふるさととしての思いがあるから戻る」という可能性も入れながら計画を作ってほしかった。「ここは危険だからダメ。あとは行政で土地を買い取って公園にする」という話が行政から一方的に強く出されてしまった。だから、「納得できない」とする住民の気持ちも出てきて当然だ。

**これから**

• 10年後20年後、そこにどういう風景ができあがるのか、ということがまったくイメージできない。その中で貞山堀をどうしろと言われても、どうしたらいいのだろうという戸惑いのほうが大きい。

• とりあえず「元のように復旧」したらどうか。余計なことはしないでそれから考えよう。

**戻る**

• 地元のみなさんから「何とか戻れないか」という話をいっぱい聞いた。人が暮らしてはじめて風景が維持され多様な生態系が守られる。暮らしがそこに営まれてこそ、外から来た私たちがそこに関わりを持とうとする気持ちが湧き上がってくるのではないか。

• 現地再建希望者が戻れるようにしたい。井戸浦では以前に茅が採れ、茅葺屋根の材料とした。農業が主でもウナギを獲ったりシジミを採ったり川の恵みをもらいながら暮らし、地域を作ってきた。「地震や津波があって危険だからここには住まない」と言っている若い人に、「それもわかるが、そうじゃないところもある。こんな方法で危険の無いようにすれば戻れる」と私は言っている。井戸浜地区120世帯くらいあった中で、戻るのは10世帯くらいか。

• 仙台市にはもともと20年前にも貞山堀やその歴史を利用してレジャー施設として観光地化しようという試みがあったが形にならなかった。堀の水が汚れていたことや南蒲生の下水処理場のこともあったろうが、荒浜の住民が貞山堀の観光地化にウンと言わなかったことも影響していた。今回は荒浜住

民をウンと言わせる絶好のチャンス！と考えて、強引に進めているのかもしれない。

• 昨年（2011年）の夏、若者たちは津波後の海でも泳いでいた。今年は中学生・高校生も泳いでいた。これが4～5年も経ったらまた何万人という人が集まる海水浴場が再開される。そのときに地元住民がいなくて誰が海水浴場を守るのか？
住民たちが体を張ってロープを張ったりして安全を確保してきた。同じように貞山運河も人がいなければ十分な管理もできない。毎年夏前に住民総出で、みんなで鎌を持って貞山運河から松林にかけて地域で清掃活動をやってきた。

• やっぱり、人がいないとダメになる。

• 「海岸公園」と位置付けて市が税金を使って業務委託などで業者に作業をさせることも可能だろう。きれいに整備されたところをこれも業者に委託して管理する海水浴場にお客さんを迎えることも可能だろう。しかし、果たしてそれが「いい」形なのか？
住民が中心となって管理しながらお客さんと交流するのと、税金を使って業者に業務委託して管理するのとどちらがいい形なのか？

• 何百年に1度の津波という怖い思いをしながらも、荒浜に戻りそこに豊かな街を作ってきた。それをもとに貞山運河を掘りそこからの恵みで日々の暮らしを営んできた。私たちは貞山運河を守りながら、子どもたちなど後世の人たちに、そういう怖いことも含めいろいろな体験をしてきたことを伝えていきたい。

• そこに住んでみないとその良さがわからない。昔の人たちも災害のあと1度は遠のいたかもしれないが、それが何百年に1度のことだったから、自然から受ける豊かな恵みや人情などに惹かれて元の地に戻ってきた。それで今の荒浜がある。

• 「ひとり特区」という面白い考え方がある。井戸浜住民が1人ででも元の地に戻って暮らし始めている。

• 三陸大津波後の状況を見ても、被害を受けたところでも法律がどうあろうと人々は戻ってくる。

**石積み護岸**

• コンクリート護岸を石積み護岸にして親水機能を持ったものにしてほしい。

• コンクリートで固めてしまうのではなく、生き物たちと共存するような水辺の造り方が当たり前になってきている。石巻周辺の特産である稲井石を使ってはどうか。

**将来像**

• 県道を走行する自動車などの避難場所を4ヶ所ほど設けるとの案が示されたが、それを利用しながら住宅用地としても使うような案も提案していきたい。

• 貞山堀の海側に盛土による小高い丘を造成して安全を確保し、いざというときそこに避難できるようにする、という案もある。こういったものをたたき台として専門家の意見も聞きながら形づくっていきたい。

• 荒浜住民が描いた将来像がある。荒浜で数mの盛土の上に住宅地を造り、貞山運河に面した所には船着き場がありウッドデッキがあり堀サイドテラスカフェがあり漁業用の納屋があり……と、ちょっとお洒落な姿も描かれている。住民も安心して暮らすことができ、そこを訪れた人も心地よく過ごせるという形だ。

• これは貞山運河の東側・海側に造っているが。ここは貞山運河開削前の明治以前は荒地だった。

• この絵ではたまたまそういう形に描いたが、それに限ったものではなく、貞山堀の西側にも地区の北側にも造ることはあり得る。

• これは日本に昔からあった濃尾平野の「輪中」の姿に似ている。「丸い」というのはとてもいい。

• 「水を逃がす」という意味で丸い形にした。

• 直線的な防波堤で抑え込むのよりもいい。

• これを貞山運河より陸側に造ったほうがいいのでは？

• これまでも海のそばに住んでいた者としては、初日の出のように毎日朝日を拝みちょっと出ると牡鹿半島が見えるという、そんな海のそばに住みたいと思う。

• 海のそばでの暮らしをもういちど作っていきたい。海のそばでもあり貞山堀のそばでもあり、舟遊びするなど訪れた人そこに住む人と交わりながら関わっていくというのが大事だ。

• 他に移りたいという人もいてもいいが、そのほかに街のほうから新たに荒浜に住みたいという人も出てくるはず。

• 「貞山堀での舟遊び」というのは、ここ数十年失われていた機能だ。地域住民は既に普通にやっていたかもしれないが、一般市民のみなさんはほとんど来ていなかった。

• 津波のことは後世に伝えていかなければならない。

• 3ヶ月後、6ヶ月後、1年8ヶ月後……の印象がどんなものになっていくのか、時間をかけてみていきたい。

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル　いま、貞山運河を考える

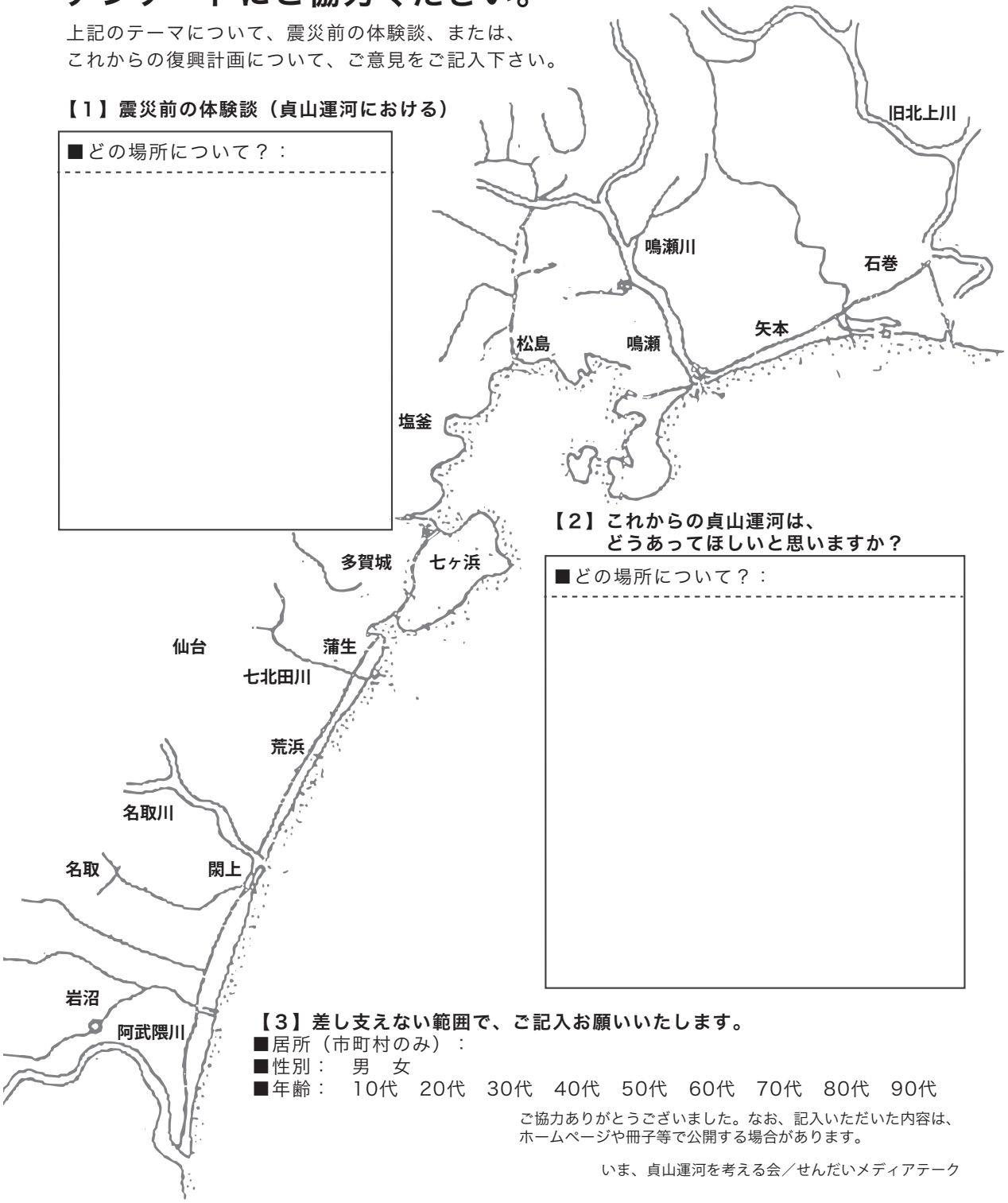
テーマ
# 「貞山運河と暮らし」

## アンケートにご協力ください。

上記のテーマについて、震災前の体験談、または、
これからの復興計画について、ご意見をご記入下さい。

**【1】震災前の体験談（貞山運河における）**

■どの場所について？：




**【2】これからの貞山運河は、
どうあってほしいと思いますか？**

■どの場所について？：

**【3】差し支えない範囲で、ご記入お願いいたします。**

■居所（市町村のみ）：
■性別：　男　女
■年齢：　10代　20代　30代　40代　50代　60代　70代　80代　90代

ご協力ありがとうございました。なお、記入いただいた内容は、
ホームページや冊子等で公開する場合があります。

いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク

## 考えるテーブル「いま、貞山運河を考える」アンケートにご協力ください

【１】本日ご参加いただいたイベントのことを何で知りましたか？
**ご覧になったものすべてに**〇をつけてください。

1. チラシ（見た場所：　　）
2. ポスター（見た場所：　　）
3. メディアテークのウェブサイト
4. メディアテークのメールニュース
5. ツイッター
6. 知り合いや家族から聞いた
7. そのほか（　　）

【２】「いま、貞山運河を考える」について

参加動機や、本日のご感想など

ご協力ありがとうございました。

【３】差し支えない範囲で、ご記入お願いいたします。

■ご所属団体：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

■年齢：　10代　20代　30代　40代　50代　60代　70代　80代　90代

※貞山運河を考える会では、一緒に運営してくれるメンバーを募集しています。
興味がある方は、上原（TEL/ FAX:022-222-0250）までご連絡下さい。

貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク　考えるテーブル「いま、貞山運河を考える」
2012. 11. 28

［アンケートより］

**2012年第4回では、前ページに掲載した2種類のアンケートを配布しました。主な質問項目について、得られた回答を紹介します。**

**主な質問項目**

**1** 参加動機や、本日の感想など

**2** 震災前の体験談（貞山運河における）

**3** これからの貞山運河は、どうあってほしいと思いますか？

---

**1** ここで話し合ったことは、どのようにオープンにされるのか？ 行政に伝えることがあってもよいのでは？

**2** 深沼橋から眺める。深沼橋を渡るのは、海水浴場への入り口。39年前、閖上から蒲生まで舟に乗ったことがあります。

**3** 水をきれいにする。杉林を再生する。人がどうかかわるか－生活の場にすることも考えるべき。戻りたい人は戻れるようにできないのか。二次的自然は、人が関わってこそ維持されるのだと思う。

［50代］

---

**2** 防風林のある貞山堀がある生活

農地の排水を貞山堀に流さない計画を実行してほしい、直接名取川、七北田川に落とすことを願う。

**3** 貞山堀は海水の入る堀として昔から生活の一部として恩恵を受けながらシジミやハゼなどがいっぱい生息していた場所なので、これからもいろいろな生物が生息できる貞山堀であってほしい。

［60代］

---

**1** 地元住民の話は身にしみた。貞山運河そのものは、まず現況に復旧して、災害からの復興は住民の意見を聞きながらゆっくり考える。

**2** 荒浜付近で潮風に吹かれていた。

**3** 最初は元のままに戻してそれから考える。

［60代］

---

**1** 住んでいた人々の話を聞く機会をもっと増やしていく方向は？

行政の方がひとりぐらい入っての討論は？

**2** 子どもの頃深沼へ海水浴に行く際に渡った記憶。そして大人になって運河だということを知り改めて伊達政宗のことを考える。

友人が堀側の散歩を楽しんでいるのを知り改めて運河の価値を考える。

**3** 部外者の立場での発言は？ 元住民の意見があまり取り上げられてないのは残念。

［60代］

---

**1** 貞山運河がなぜ汚れていったか？

地元の人の話が無駄にならないようになってくれたら良いなと思いました。

元の自然に戻してから改良を加えても良いのでは？

人々が行き交う処になってくれるといいですね。

**2** （荒浜で）松林の貞山運河沿いは私と犬たちの散歩コースでした四季を通じて楽しんだところでしたがいまは見る影もなく淋しいかぎりです。

**3** （荒浜で）自然豊かで、ボート、釣りなどが出来たら良いね。

［60代］

---

**1** 荒浜の方、井土浜の方など地元の方々いろいろな意見が聞けてよかったです。

**3** 人が住んで、活用されてこその貞山運河だと思います。

［20代］

---

**1** きょうはみなさんの話を聞かせていただき、大変勉強になりました。

**2** 震災前に貞山運河に触れたことがないため、体験談はありません。

**3** 地元の人のためになる場所になって欲しいし、今回の地震、津波での被害を踏まえた防災という切り口も大事にする運河であってほしい。

［30代］

---

**1** 護岸を石積みにしたら、生き物と人に優しい環境に戻るのではないか、コンクリートからの脱却を！

荒浜で生まれ育った方の生のお話が伺えてよかった。知らなかった暮らしぶりから豊かな自然に恵まれていたことがよくわかった。田んぼと貞山運河の

落差が大きくなったため（耕地の区画を大きくするため）魚が行き来できなくなった、生活排水の質が変化した、水田の用水確保のため海側に水門を設けて海水が混ざらないよう水が流れなくなったなどいろいろな因果関係について学べた。
人が住んで初めて活きる自然環境！
住民を主体にした荒浜再生を願っています。
**2** 学生時代に海上運動会で盛り上がりました。私は応援のみの参加でしたが、頂いた手拭は今も健在です。蒲生の干潟では、鳥もさることながら、海岸付近の運河で貝取りに興じる子どもたちの姿が印象的でした。
**3** 先日、荒浜を震災後初めて訪問。かつては松林に隠れていた海と貞山堀がむき出しになっていました。居久根も潮風や山から吹き降ろす強風にさらされて枯れてきたとのこと。せっかくの資源を活かすためには再び水運に、何百年もかけて作られた林は計画的に植林し、生態系の復元を目指して欲しいと願っています。
［**60代**］

---

**1** 歴史と貞山運河という大きなテーマから、一つひとつの人々の生活や暮らしをどのように考えるかを見ることができればと思い参加させて頂きました。人々がどのような生活をしているのかわからないので仙台に住んでいても知らないことが多いと感じました。
**3** 人が行き交う場所であってほしい。
人々が多く関心を持つことで貞山運河が変化していくと思う。
［**20代**］

---

**1** 貞山堀は荒浜（深沼）の重要な環境の一部、貞山堀をいかに再生するか、重大な項目であると思う。
**2** 子どもが小さい時よく貞山運河で釣りをしました、ザリ沼、カニ沼に子どもたちと行った。
**3** 貞山運河に桜並木をつくる、サイクリングロードと合わせて市民の憩いの場をつくる。
［**60代**］

---

**1** 地元の貞山堀、政宗さんが造った。ご先祖さんが汗水流して築いた貞山堀。ほかの町からみんながバス、車、自転車、歩いて見に来ています。いろんな生き物がここで育んでいます。
父（昭和９年生）は裸で泳いでハゼ、シジミを取り、母はお米を研ぎ、その研ぎ汁に魚が集まり、おかずにする。恵みの運河です。
生活の中にも供養の灯ろう流し、火災の時の消火、松林に囲まれた穏やかな時の流れを感じさせる運河です。
**2** 荒浜海側の辺は松林、海、貞山堀があり、一等地の場所で自慢です。
荒浜から北へ蒲生、南へ閖上の方面は、漁師の手伝い、幼稚園の頃から小学生の方たちとの遊び場でした。
駐車場になる前はヨシ原で大雨が続くと沼地になり、カニ、メダカ、ヨシキリの居場所、ゴカイ取りでお小遣いを稼いだ記憶があります。いまはウナギのシラス取りです。
**3** 元の松林の綺麗な風景が戻れば嬉しいです。
［**50代**］

---

**1** 荒浜再生を願う会の会合に参加し情報を得ました。私は閖上出身で3.11は大きなショックを受けました。荒れ果てた貞山運河を見て、まずは元の運河に再生し、10～20年の長いスパンで3.11の記憶を留めるとともに多くの市民が水辺に親しみながら気楽に遊びに来れる場所にしたい。
**2** 若林区に住んでいますが故郷は閖上で、実家が流されました。
閖上では、小さい頃にゴカイをとってよく遊んだ。
2006年、井戸浦を舟で楽しんだ時の綺麗な風景が忘れられない。
**3** 時間はかかると思うが（10～20年）歴史と水辺に親しみ、楽しめる運河を望みます。
できれば陸のレジャーと一体で、市民だけでなく近隣の方も楽しめるような。
［**60代**］

---

**1** 現在、山形県新庄市の有志が立ち上げた防風林再生プロジェクトのメンバーとして活動を行っていることから参加。また、実家が井土地区であるのも参加理由。強く復活を願いたい。
**2** 昔、井土地区は松葉を燃料として利用、年に1回（2～5月）集めていたため貞山堀を含め美しい環境

でした。釣りの名所として多くの釣りマニアが来て数多くの交流ができた（井土地区）。サイクリングロードを利用してウォーキングを行っていた（土日は多数見られた）。子どもの頃の遊び場（井土地区）。

**3** 蒲生〜藤塚までの松林がなくなったので昔の松林に戻してほしい（塩害防止のためにも）。井土地区にレクリエーションの場所として復活（釣りゾーンなど）。貞山運河の歴史を伝えてほしい、年に2回ぐらい船で回ってみるなど（井土地区）。

［**60代**］

---

**1** 若い時、土木、地理学を専攻しましたので興味がございます。

**3** 現在、小生は週2回七ヶ浜アクアリーナに水中ウォーキングにいっています。単的に、古来からの貞山運河に「東京湾周遊など」小型水上バスを計画されたらいかがなものでしょうか？

［**70代**］

---

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

被災地を貫く貞山運河（ていざんうんが）。
木曳堀、新堀、御船入堀、東名運河、北上運河からなる貞山運河は、
旧北上川河口から阿武隈川河口までを結ぶ日本一長い運河であり、
慶長2年（1557年）から明治17年（1884年）にかけて
つくられた、宮城県の誇る歴史遺産です。

かつてこれらの運河は、それぞれに異なる役割を持ち、
藩米や木材などの輸送のために、また野蒜築港運用のために
開削されたものでしたが、近年では、農業用排水路、ボートの係留地として、
また、サイクリングなどレジャーに活用される、地域住民のいこいの場でした。

これまで貞山運河に関わりのあった人、
震災後、初めてこの場所が気になりはじめた人、
それぞれの立場から、貞山運河のこれからについて話しあってみませんか。

2年目となる今年は、毎回テーマを設定し、さまざまな角度から考えていきます。

第5回

## 「貞山運河の遊びと観光」

運河を活用した観光の柱は？
魅力を伝えるアイディアは？
これから貞山運河でもう一度遊ぶためには
観光に活用させるためには　どうすればよいのか考えよう

2012年12月19日（水）18:00－20:00

会場：せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア

入場無料　直接会場へ

【主　催】いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク

【問合せ】TEL／FAX：022-222-0250（上原）

※ここでいう貞山運河とは、北上運河、東名運河、御船入堀、新堀、木曳堀を指します。
※この企画は、ヒアリングした意見を集約し、自治体に提言する案をまとめるものではありません。
※当日は、イベントのレポートとしてウェブサイトに公開するために、会場の様子を写真撮影します。

考えるテーブルとは

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場を「考えるテーブル」と題してオープンスクエアに開きます。

http://www.smt.jp/thinkingtable/2012

考える テーブル

※この用紙はリサイクルできます。

# 2012年 | 第5回 | 貞山運河の遊びと観光

**運河を活用した観光の柱は？**
**魅力を伝えるアイデアは？**
**これから貞山運河で**
**もう1度遊ぶためには**
**観光に活用させるためには**
**どうすればよいのか考えよう**

**今回は今シリーズの最終回「スペシャル」ということで、いつもの7階の会場ではなく1階の大きな会場を使って多くの方に参加いただきながら「貞山運河の遊びと観光」というテーマで、参加者同士で和気あいあい会話できるような場づくりを目指しました。**

［報告］
**上原啓五氏**（いま、貞山運河を考える会／作庭舎）
**「宮城県土木部『貞山運河再生復興ビジョン』に関して」**

平成24年12月13日、この『考えるテーブル』について宮城県土木部河川課から呼ばれ、会（の対話）の状況を話してきた。各市町村でそれぞれ作成されている復興計画を全体的にまとめようと、学識経験者などを中心とした『貞山運河再生復興ビジョン』という名の座談会を11月5日に開催したが、このほか、一般市民の意見も聴きたいという趣旨だった。
県は単なる〈復旧〉にとどまらず400年の歴史をどうやって未来につなげるかという形の再生を考えている。その「ビジョン」での話の内容は概ね下記のとおり……、とのことだった。
県からのトップダウンではなくさまざまな視点による復興事業を集約したものにしたい。
「貞山運河」、「景観」などがキーワード。事業の中で変わる部分と変わらない部分がある。
県民の憩いの場であり、将来も歴史遺産として残すべきだ。
利活用と防災の両立が難しい中で、活性化する姿勢で考えていきたい。
干潟など環境保全の視点も必要。
再生計画の指針については津波に対する防災機能強化も考えたい。既存運河の拡幅もある。

═

私からは次のように提案した。
280年の歳月をかけて完成したすばらしい産業遺産・歴史的景観。
時間をかけて内外に発信すべき。
ドイツのエムシャーパークで活用したIBA方式やバルセロナのサグラダ・ファミリア教会等を参考にして、運河の復興を国内だけで決めるのでなく、世界中にアイデア・デザイン等を求める方法を考えて欲しい。
やり方によっては復興のシンボルとして世界から注目を浴び、人を集めることができる。
貞山運河を軸にした全体のグランドデザインを考えて貞山運河を宮城県の復興のシンボルとして再構築し、安全で魅力的なものを造っていきたい。

═

また、県の「ビジョン」の基本構成は、運河の成立過程と機能を踏まえ、震災による状況変化を検討し、再生復興のコンセプト・基本方針を作り、具体的な方法と工程を示し、最終的には計画実現に向ける取組などを論ずる……という形になるようだ。
今後、沿線市町村・関係機関・NPOなどから広く意見を聞き取りまとめていく。2回目は平成25年2月4日開催予定。……そんな話を聞いてきた。
なお、これは県のホームページでも公表されているとのことだった。

**話題提供［1］**

**黒田清志氏**

**（いま、貞山運河を考える会／みちのくやまづと研究所）**

**「観光・集客・交流」**

名所旧跡を巡る「観光」だけでなくほかの産業も含めて、地域に来てもらう「集客・交流」という流れの中で貞山運河を考えたい。

そもそも何のためにそんな事業をやるかというと「地域が豊かで元気になる」ためである。そのために、「経済的な活性化」が必要。いろいろなことをやるための財源・経済力を持って現実的に暮らしが豊かで文化的になる。「文化」を「みんなで楽しむこと」と考えれば、「みんなで楽しく暮らす」、これを実現する方法のひとつとして「集客交流事業」がある。

「集客交流事業」を進めるテーマとして「貞山運河」は大きな可能性がある。

地域が経済的に豊かになる方法として、①外からお金をもらう、②地元で作った物を外に売る、③外から地元に来てもらう……、などがある。①は国や県などからの金に頼ることなどだが、国の財政事情が不安定だしいつまでも頼っていては知恵も人も出てこない。②、③が現実的で、ここで知恵を出し努力して頑張ることが必要。外に売るだけでなく地域の中の人に売ることも大事だが、それだけだと不拡大再生産になり伸びしろがない。やはり外に売ることが重要。

「観光」だけでなく、農林水産・教育・医療・文化の各分野との連携や、企業・研究機関などの誘致など、多くの人が外からやってくる工夫が必要。宿泊・観光業だけでなく、農業・工業の方も、多くの人に自分の街に来てもらって交流するという考え方が必要だ。住民も自分の町が豊かになるチャンスと捉えて積極的に歓迎すべきだ。

「外に売る」というのはお土産品や名産品などが当たり前だが、農林水産物だけでなくゲームやキャラクターなどの「ソフトコンテンツ」もある。

これからは「外から来てもらう」ことも考えたい。観光・買い物のほか、コンベンション・エンターテイメント・工業・テーマパーク・ミュージアム・復興支援ツアー・通勤・通学・通院・冠婚葬祭、等々。

集客交流事業は「平和産業」だ。争いのある所には人は行かない。平和で安全・安心が確保されなければ客は来ない。また集客交流事業には、情報が集まる、環境負荷が少ない、地域コミュニケーションが深まる、地域内外とのネットワークを通じて提案してすぐ反応が返ってくる、関連産業が多い、あらゆる文化・産業との連携が可能、など多くの特色がある。逆に言えば、それらすべてを実現してはじめて集客交流事業が成り立つということでもある。いわば「総力戦」で取り組む必要がある。

経済効果だけでなく、交流することによってもっと価値が上がることもある。集客に加えて、「交流」によってお金だけでなく「情報」も持ってくる。交流事業の典型的なものに「学会」がある。集客交流事業で学術分野だけでなく、文化・芸術・環境・福祉などあらゆる分野のレベルアップが可能となる。

シンガポールやモントリオールなど世界中が地域活性化の方法としてコンベンションなど集客事業に取り組んでいる。バルセロナのサグラダ・ファミリア教会のように200年かけて造っている建物に世界中から人が集まってきている。ドイツのエムシャーパークでは産業空洞化により荒れはてた工業地帯に世界中の建築家からアイデアを募って造った建物そのものが人を惹きつけ、街づくりのコアとなって地域を再生させた。中国には、『清明上河図』という北宋時代の絵巻物をもとにして川のほとりで繰り広げられる歴史的な暮らしを再現したテーマパークの例もある。札幌ではゴミの埋め立て地をモエレ沼公園とし世界中から年間90万人を集めている。時間をかけて世界的なデザイナーの知恵を集めて公園施設を造っているという例である。

貞山運河利活用の大前提として、そこに集まってくる人たちの安全確保が、まず第一である。しかし、長大な堤防を作って高い塀の中で遊ぶようでは面白くない。美しい海岸と運河の景色や水質も重要だ。集客交流事業には地域内外の人の合意・参加が必要。貞山運河は日本の海岸景観のモデルになり得るし、また、津波防災システムの最先端モデルとして世界中に発信できる。
地域ごとに暮らし方も違い多様な利用形態がある。遊びでいえば、自転車・マラソンなどのスポーツや舟遊びなどのイベント、マーケットなど、歴史と景観を生かした世界レベルの計画を作って、国内外の人々との新しい交流の場・つながりの場として提案していくことができる。

**話題提供［2］**

**高橋悦子氏**

（**NPO法人冒険あそび場――せんだい・みやぎネットワーク**）

「**〈遊び〉について**」

〈遊び〉は子どもたちにとっての「生きる力」そのもの。仙台海岸公園・冒険広場プレイパークの運営方針として、①リスク管理・ハザードの除去、②自分の責任で自由に遊ぶ姿勢、③過剰な管理を行わない、④利用者ニーズを基本として利用者参加による公園運営を行い公園サポータを募る、などの考えでやってきた。松林に囲まれ西側には田園地帯が広がり、震災前から、近くの水路で魚を捕まえたり田圃の探検をしたり学校の授業の中でも取り組んでいた。公園内では一部を残して草刈りし虫や花が生息するようにしたり、自由に穴を掘ったり、刃物を使っていろいろな物を作ったりしていた。
海岸公園冒険広場の被災状況はパンフレット『ぼうひろ』にも記述されているが、ほとんど津波に飲み込まれ、冒険広場の丘の一部に取り残されたスタッフ2名、住民3名、猫1匹、犬1匹がヘリで救助された。管理棟の壁に設置してあった時計は15:53で止まったままになっていた。その後貞山堀では何ヶ月も捜索が続き、冒険広場近くには多くの瓦礫が高く積まれ、3ヶ所のがれき焼却炉が設置された。
2011年5月から六郷小学校の校庭を借りて遊び場を再開、夏休みの8月からは七郷遊び場も始めた。田植え遊びなど、子どもたちだけでなく大人も一緒に遊べる場づくりに努めた。被災後、生活は一変し一番時間のあるのは子どもと高齢者。その世代をどう繋いでいくのか。生かされた私たちには子どもたちの声に耳を傾けていく役割があることを認識して遊び場づくりに関わっている。

**各グループでの話し合い及び全体討議**

（まず3つのグループに分かれて話し合い、大地図へ個人の意見を寄せ書きしました。その後各グループからの報告がなされ全体での討議が行われましたが、この記録の中では、話題にのぼったテーマごとに集約・編集して記載しました）

**全体的方法論**

- その地域特有の「必然性」は無視できない。必然性を無視してやっていくというのは、大きなエネルギーが必要だ。そうでないと永続性をもって続けていくのは難しい。例えば若林区の長喜城（ちょうきじょう）の居久根もそれが必要となるような生活環境を作らない限り、生活から切り離して単独で観光資源とすることは非常に難しい。それが必要となるような必然性がある施策でなければ、どんなすばらしい計画を立てて金を投資しても継続することは無理だ。
- 関係地区の住民自身がその施設に対して誇りを持たない限り、いくら市が予算をつけて有名人や知識人などがどんな立派なことを言って施策を考えても、絶対にうまく進まないし何も実現できない。重要なのは、地区の住民たちが誇りを持って子ど

もたちに伝えていくことだ。

●それぞれの地域の特性を考えてやっていかないと永続性のあるものにはならない。海水浴にしても産業との絡みにしても、全体一律ではなく、運河それぞれの生い立ち・特性に基づいて観光も考えていくべきだ。

●貞山運河の長い沿線の中での「地域それぞれの特性」を考えるとき、その地域の人たちが自分たちの地域をいかに認識しているか、ということが重要だ。外の人間がいかに動いても、肝心の地元の人たちがそのことに関心を持たない限りそれが重きをなして市全体・全国・世界に発信することはあり得ない。貞山運河のそれぞれの区間の地域の人たちがいかに運河に対して意識を持っているか、それに産業がどう絡んでいたのか地域の生活がどう関わったのか、ということが明確に認識されていかない限り観光というものが発展することはなかなか難しい。

●仙台市などでは以前と同じ形ではそこに住めない可能性が高い。そうなると、かつて住んでいた人たちは新しい所で今までとは違う形での関わりを持っていかなければならない。集客なり産業なり暮らしの中でこれからの沿岸部の暮らしをどう作っていくか大きな問題だ。

●東六郷の住民をはじめいろいろな団体で意見を取りまとめて出している。

●一つひとつのアイデアはいいとしても、全体をきれいにしなければ見てもらえない。

●中途半端になってはせっかくの考えもダメになってしまう。「観光」にしても、しっかりとした見通しがあって「将来は緑の公園でこういう姿になっていく」というものを作らなければならない。

●せっかく造った公園も活用されなければ経費ばかりかかって大変だ。冒険広場のように、「どうやって運営していくか?」というマネジメントの視点も重要だ。美しいデザインをしてくれる人、それを活用する人、それぞれのタイアップが必要だ。

●『貞山運河魅力再発見協議会』は現在休止中だが、県の「ビジョン」が動き出せば、協議会には各市町村も入っているのでまた再始動するはず。

●せっかくこういう形で集まっているので、運動を続けながら行政にも働きかけていきたい。

●「歩きながら考えよう」と言いたい。それは「実際現地を歩きながら」というのではなく、「少しずつ行動しながら、時々立ち止まってその中で考えよう」という意味だ。「一挙に7.2mの防潮堤を造るのは考え物だ」ということも含めて。

**専門家**

●残念ながら貞山運河そのものはあまり有名でない。「建築家自体も道具だ」との言葉にもあるように、むしろ世界中から有名な建築家によるプランをいただいて、それを利用して事業を進めることもいいのではないか。ただ造っただけでは人は寄ってこない。〈復興〉で客が来るのはせいぜい数年だけだ。

●スペイン・バルセロナのサグラダ・ファミリア教会のように、これから100年かけて楽しく面白い水辺空間を創っていこう。そのために、世界中からアイデアを募集することも考えてはどうか?

「国からの補助金をもらって県がやりました」という事業も悪いことではないが、その金があるのなら審査基準を作って世界中の建築家や土木家・デザイナーなどからアイディアを募集する。むしろ外国人にデザインしてもらったほうがはるかに面白いかもしれない。もちろん「歴史的なものは壊さない」「昔の物も大事にする」「日本風の形にする」とかの前提はある。そうすれば世界中の人が注目するすばらしいものになるのではないか。世界に投げかけるほうが広がりを持って面白いものを生み出すのではないか。

●計画づくりを専門家に頼むという話が出たが、できれば被災地も含めた地元の人間が、被災地をどうやって再生させたらいいかということをみんなの知恵を集めて作りあげる形がいいと思う。

●「専門家が主導する」のではなく、「専門家に知恵を出してもらう」という形だ。

●ただ〈再生〉だけを行ったのでは人は来てくれない。有名な人たちが関わることによって知ってもらい県外からも人が来る(……ということだ)。もちろん「任せてしまう」ということではない。専門家に我を通されては困るので、地元の人たちの意見をきちんと聞いてもらうことは必要だ。お互いの話がかみ合うような専門家がいい。

**恐怖と安全**

●「また津波が来る」なんて言われたのではどうしようもない。

• 以前は貞山堀沿いのサイクリングロードをよく自転車で走ったが、震災後は怖いし走れるような状態でないので止めてしまった。怖くて沿岸部には行けない。
• 沿岸部に遊びに行くことに対してまだ恐怖感がある。だからと言って「安全のため」と堤防で囲めばいいというものでもない。両立させるのはなかなか難しい。専門家の考えを聞いてみたい。
• 東京からの友人を荒浜などの現地に案内することもあるが、津波の危険性を考えると被災地を気軽に「観光」するというのには抵抗がある。気持ちを切り替えるのにはしばらく時間がかかりそうだ。
• 安全と観光は両立がなかなか難しい。いまも海に近寄れない人がいる中で、県も復興計画を作っていない。地域ごとの計画にも踏み込んでいない。県・市それぞれの立場はあろうが「案」はできるだけ出したほうがいい。
• 観光は当然「安全産業」でなければならない。美しくない所に人は来ない。それを担保した上で集客交流がある。解決しなければならない課題は多い。
• 県の考えでは、県道塩釜亘理線を横断する道路は下をくぐるのではなく、すべて上を乗り越えていくような形とし、災害危険区域とされた区域を完全に遮断してしまうようだ。こうなると、県道より海側は実質的に「危険区域」として「危ないからダメ」という形でシャットアウトされ、観光も何も意見が出てこなくなってしまう。これからいろいろな意見が出ればその考え方の見直しもあるかもしれないが。
• 荒浜についても、「ここから先は住むところではない」という形だ。
• 海側には現在誰も住んでいないのだから、県道嵩上げを急ぐ必要はない。「貞山堀観光」についてもいろいろアイデアを出せるはずなのに、行政ではその場所をそんな扱いをしている。
• 「県道嵩上げ6m」というと仙台東部道路と同じようなものになり、景観など台無しになってしまう。
• 「それが地区を遮断してしまうとしてもいまは道路が主力。後のことは別……」という形になっている。
• 「人が死なないように……」というだけ。
• 高い防潮堤を造ると異様な光景が出現しそれによって貞山運河の価値が損なわれてしまうことにもなりかねない。自然の動植物もつながりを無くしてしまって死滅してしまう。「コンクリートの壁」ではなく「植林」を進めたほうがいい。
• 高い堤防で囲まれた貞山運河なんて刑務所の塀のようだ。それはないだろう。
• 貞山運河の価値を高めるためには「自然環境をどうするか」が重要。それを壊したらせっかくのものが台無しになってしまう。
• 〈復興〉というのは、ただ防波堤だけを造るような〈防災〉だけでなく、人がそこで遊んだりできないと意味はない。
• 仙台と浜松は地形が似ている。16mの津波が来るといっても堤防がない。浜岡原発を抱えており危機感は強い。
• 田老町・石巻大川小・南三陸町など世界遺産に登録できないか？
• 世界遺産も集客の大きなシンボルになり得るので、「災害遺産」のような形での可能性はあるかも。ただ、どこまでどう残すか、いろいろ議論はあるだろう。
• 5〜10分程度で歩いて避難できるように「安心」が確保されれば、みんなが行くことができるようになる。
• 津波が来ても大丈夫なように、冒険広場のように高く盛土した「道の駅」なども考えられる。

**防潮運河**

• 運河そのものを「防潮運河」として、津波を防ぐ目的で造ることも考えてほしい。

**経済**

• 「観光」によって地元に金が落ちるような仕掛けにしないとダメ。
• 周辺の町に金は落ちても地元にはなかなか落ちない。地元に金を落とすために、1円でも10円でもいい「通行料」みたいなものがあってもいいのでは？

**海水浴場**

• 荒浜は市長から「廃町宣言」されているが、深沼海水浴場の復活を願う。
• 荒浜は子どものころからの遊び場だった。海の中の状況は分からないが、海の中への通路整備などで海水浴場復活をお願いしたい。

**子どもたちと大人たち**

• 子どもを預かる施設を設けて小さな子どもたちを連れたお母さん方に来てもらって、地元の農産物で料理を作ったり染物や手芸をしたり、年寄なども交流できる場をあちこちにつくる。地元の年配の人

たちものんびり参加しながら、東京など街の人が好む「野草」を生産販売する。

● 子どもを預けながらゆっくり安心してしょっちゅう行きたくなるような場所を。

● いま4年生5年生くらいの子どもたちの10年後20年後の姿をイメージすると、次の時代の担い手となる子どもたちがいるということはとても大事なことだ。自分たちが生まれ育った所がとても不安な恐ろしい場所であるという思いを緩和させるには何をしたらいいのか？

いま生かされている生き残った大人たちが子どもたちに伝えていくべきことがあるはず。ただの「怖くないよ」ではなく、「どう生きてきたのか」を伝えることが必要ではないか。そういう役割が高齢者にもあるはずだ。子どもを育てる責任は親にあるとは言っても、沿岸部で被災したお父さんお母さんたちは、いまものすごく忙しくて姿が見えない。そこで、それよりもさらに高齢の親、おじいさんおばあさんの世代がそれを担わなければならない。「生活」や「生き方」といったものを子どもたちに伝えていくべき役割があることをみんなで認識し合って伝えていきたい。

● 震災前から、いい大人も含めて子どもたちは既に流出してきていた。流出しているのに「将来の担い手」というのは夢が大きすぎないか。

● 集団移転するにしても記憶が飛んでしまいそうになっている昔のことも拾い集めて「記録」として残して繋げていきたい。生きている以上は未来を開いていく力が徐々に出てきている。

● 2009年2月に、貞山堀の将来像について東六郷小学校のみなさんが若林文化センターでの発表会で非常に立派な意見を出していた。例えば、昔の道具や防風林の模型などの展示場、図書館、天文台、望遠鏡、遊園地、釣堀、水族館、ホテル、温泉、売店、ウォータースライダー、浄化センター……。これらは子どもたちが発表したものそのものだが、よく考えたものだと思う。ただ、当時は震災前であり、いまではちょっと……というものもあるが。

**交流**

● 「水」に詳しい先生などの話も聴けるような多目的スペースをつくる。

● レストラン、コーヒーショップなどの施設をつくる。

● 被災した東六郷小学校の校舎を「青少年セン

ター」として活用して寝泊りできるようにする。近くに冒険広場や観察するところもある。いろんな知恵が出てくるはずだ。

● 農家や漁業者だけという昔の姿に戻してしまうのも有りかもしれない。「もともとは静かなところだった」という形もある意味では観光の目玉になり得る。

● 仮設住宅でも、町内会デビューできていない男たちが大勢いる。働きに出ていて忙しいというだけでなく、家にいても集会所に来ない人も多い。そういう人たちを引っ張り出さないと、次の世代に伝えるというのも難しい。

● 荒浜地区の住民たちも自分で考えて、深沼海岸に外から大型バスで「被災地観光」に来た人たちに対して「自分たちのふるさと荒浜はこんないいところだった」、「これからもこんなふうに荒浜を再生させたい」と、自分たちの考え・希望を話しかけてきた。お客さんたちもけっこう耳を傾けてくれて、住民も自分で話しながら大きな手応えを感じ始めている。こういったことが今日のテーマである「観光・交流」に繋がっていくのかもしれない。

● 「観光」と言えば、いまは被災地の状態を見に来る人が多いが、被災者としてはそれだけでは辛いところもある。むしろ、「被災地復興観光」ということを我々の「売り」にしたい。時々刻々変わっていく、その状況、復興しているまさにその現状を、逐一見続けて何回もリピートしてもらう。「見続けていって欲しい」ということも住民同士で話し合っているところだ。

● 「楽しい場所には人が集まる」と言ったが、楽しいというのは「そこに行ってよかった」と思えることも必要だ。復興計画の中で安全安心の担保が必要なのはもちろんだが、その上で、蒲生から井戸浜にかけての海岸公園をどう生かすのかが課題だ。そ

こに入っていって体験したり体感したり……、という場所に作り変えていくことが必要だ。

●貞山堀沿いのサイクリングロードを走ったりしていたが、貞山堀の水がどこから入ってどこに抜けていくのか、運河の水がどんなふうに行ったり来たりしているのか、ということも私は全然わからない。「自然再生」という考えに共感でき、貞山堀そのものも後世に残すように存続させるよう環境整備をお願いしたい。サイクリングロードを運河全線数10kmにわたって開設したら、全国のサイクリストが集まってくるのではないか？

●自然環境が復活することによっていろいろなものが出てくる。テーマパークやサイクリングロードに人が集まり宿泊できどんどん広がっていく。冒険広場などもあれば、子どもたちから大人まで広く楽しめる。

●トライアスロンや自転車などのスポーツイベントは人も集まり注目度も高い。注目されるとバスなども運行され避難のシステムも整備されていく。

●ボートやヨットなどの舟遊びに関わる何かの「世界大会」など貞山運河を利用した世界の競技大会を開催したらどうか？

●以前、深沼海岸でやっていた砂の彫刻「サンドフェスティバル」の大きいやつもいい。札幌の雪まつりのように。

●荒浜住民は自分たちで荒浜再生の将来像を描いている。荒浜地区に盛土で小高い住宅地を造ってそこに住みながら畑で野菜を作ったり、貞山堀のほとりには船着き場や漁業用納屋を設け、ウッドデッキのある堀サイドテラスカフェにお客さんを迎えたり、という姿だ。古代中国の絵巻物『清明上河図』にも通ずるイメージだ。

**運河博物館**

●運河の歴史ではヨーロッパや中国などもあるが、江戸の運河も生活の中で貢献してきた。そこも含めての「運河博物館」というものも造れるのではないか。

●運河に関する研究者も巻き込みながら資料を集めていくことも必要だ。

●すでにある『貞山運河事典』というホームページも充実している。ウェブ上の博物館のようなものだ。

**水族館・生物館**

●ダイビングで水中写真を撮っているが、仙台湾独特の生物相もあるだろうから、仙台港あたりに計画

されている水族館などのように立派な器でなくていいから、子どもたちが地元の生物に簡単に触れることができるようなものがあるといい。

●貞山運河に棲んでいる生物・動物・植物などもいい。

**松籟（しょうらい）・潮騒**

●「松籟を聴く」ような松林の環境も再生させたい。

●仙台駅近くのX橋付近にむかし下宿していた島崎藤村が「荒浜の潮騒の音が聴こえてきた」と若菜集に書いている。そのことを観光にも役立てたらいいのではないか。

**舟遊び**

●東京の隅田川などのように水上バスを運行して関所・茶屋などを設けたら、観光に役立つのではないか。九州の柳川・山形の最上川・丸森の阿武隈川など船での遊覧の例も多い。

●動力を持たない手漕ぎの木造の小さな船「和船」を貞山堀に浮かべたら？

和船をつくる技術者・船大工も少なくなっている現在だが、それで観光客を運んだり農作物や漁獲物を運んでもいい。

**るーぷるバス**

●荒井から井戸浜・荒浜・蒲生・仙台港などを通る沿岸まわりのるーぷるバスを運行すればかなり利用されるだろう。冒険広場に行くためにもバスの便は必要だ。

**復活のきざし**

●震災前から行っていた「生き物調査」を震災後も続けているが、多くの生き物が戻ってきている。それが自然の力だ。自然が壊されたら人工的につくるしかない。人工的につくるのであれば、しっかりと受け止めた上でやりましょう。つくった後の課題も含めて「育ち合う」場所がないと本当の復興計画には

ならない。

• 施設からつくるのではなく、まず自然や環境を回復させることが必要。

**環境**

• 荒浜がもともと漁業地・農業地だということを忘れてはならない。田んぼは石ひとつ入っただけで鋤鍬が壊れ農機具が壊れる。「観光」もいいが、車の油が浮いたら農作物や漁業に影響が出ることを考えなければならない。

また、「トイレ・屎尿をどうするか?」ということも重要だ。「環境」と言いながらトイレ対策はひとつもない。仮設トイレは持ってきても数が足りない。下水道にしてもそのルートが回復していない。屎尿・ゴミ・油の問題が解決されなければ観光も成り立たない。

• トイレについては、荒浜小学校や海岸公園清掃など大勢の人が集まる催しの際は主催者の住民が自分たちで仮設トイレを用意したりしていたが、その後、市と話し合って、現在は深沼海岸に3基の仮設トイレを設置している。少しずつは進んでいる。

**記録**

• 若林区で活動する支援団体が作ったいい資料がある。

• 壁に貼った大きな白地図にみなさんの考えを書き込んでほしい。

• 「どこでどんな被害があったのか」などということについて貞山堀の災害の記録も重要ではないか。例えば井戸浦で堤防工事の作業中だった人たちの証言もあるし、何台もの重機が倒れ込んでいるgoogleの写真は何ヶ月も掲載されていた。

**松林・植林**

• 現在の海岸防潮堤の工事の急速な進み具合を見ると、悠長なことは言っていられないと感じる。せっかく「実生の松」の芽が出てきてそれを利用したらいい松林ができるのに、工事でそれがみな無くされている。本当に寂しいことだ。

• 行政は既存の松についてはまったく利用しないと考えているようだ。

• 「実生の松」との話もあるが、これから植えていく松の木はこれまでとは違う「松枯れ病に耐性のある樹種」にしていくはず。自然に生えるものはともかく、資金を投じて植林するのはそういったものにしていくだろう。

• 貞山運河沿線のほとんどが松林で、それが運河の魅力にもなっているのに、それを回復せずに何をやろうとしているのか?

• 植林するにしても、それが工事のための重機の邪魔になってしまう。

• 県は最終形を考えて工事なども行っているはずだ。土木部分ができあがるまで何年もかかるだろうが、植林するにしてもそれまでは一般の人間に手は出させないだろう。

•県は「仕上がりはこうなる」という形は描いている。

• いまは基礎地盤づくりの段階だから植林はその後になる。

• 県のほうが将来像を示さないからいま不安になっているところもある。将来像が示されれば納得できるところもあろう。

•400年先を見据えながらまた松の木を植えていこうという活動の中で松の木再生ボランティアとして資金も集まっているが、木を植える場所がない。松の木は1年2年で大きくなるわけではなく何百年もかかる。少しずつ植えていかないといい防風林にはならないのに、現在の工事計画から見るとそれが全然進んでいない。

• いや、35年も経てば立派な松の木に育つ。

• 今日のような議論を続けて、10年くらいは「集客交流」として全国から来てもらって、毎年区域を決めながら全員で松を植えていく……というのもいいのではないか?

• 松林もいいが、桜など新たな樹種も考えたい。全国に声をかけて他県の人たちも含めた触れ合いの中で植林し再生していけたらいい。

• 貞山堀沿いは桜の並木にしてほしい。計画的には松の木は一気には植えられないので、「集客」として春先に花見とともに来てもらってボランティアで松の木を植えていってもらうのはどうか?

「集客」をしてまず貞山運河の状況を見てもらい、知識としてみんなに広めていくことも必要ではないか。

• 全国から来た人たちの地域名称例えば佐賀であれば「鍋島桜」などの名前をつけるのもいい。ともかく木を植える。来た人は好きな場所を選んで、植えたら命名権はその人たちに、という形もいい。できれば各県単位か町単位ぐらいで来てもらいたい。

●景観計画には「100年後にはこんな姿になる」というようなものを示す必要があろう。
●「松林」があっての貞山堀だから、最低限「松林」を確保した上で、あとは好きなように……というのもある。
●自然再生のきっかけを人間がやる、という形か。
●仙台湾の黒松は浜松から来た松が始まりだ。400年前、政宗が和田印旛守に「遠州の松を買え」と命じて植えたという歴史がある。

**居久根**

●居久根は基本的にはその家の資産とされる。立派な居久根はいい点もあったが雪解けが遅いなどの弊害もあった。「居久根が無くなってはじめてその意味がわかった」と言っていた持ち主もいた。その上で、屋敷林とは何か居久根とは何か……と真剣に考え始めている。しかし、そこに木があっても自分だけでは管理しきれない。では、「どうしよう?」ということで、専門家の力も借りながら市民やNPOなどとも力を合わせ、「居久根を育て合う環境づくり」を提案したい。
●区役所も一時は居久根を活用した事業も考えていたようだが、津波で被災したこともあってかなり伐採されてしまった。残念だ。

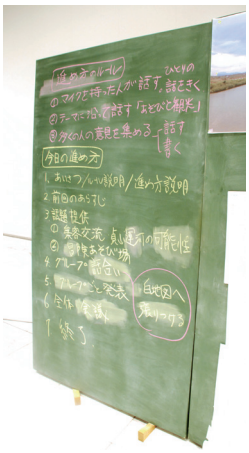
**眺め・景観**

●冒険広場の丘からの景観はすばらしい。泉ヶ岳から蔵王・岩沼・金華山の島影……、この景色は他では見られない。ただ、せっかくの360度展望台なので、できれば主だった山などの説明板もあるとありがたい。
●私も娘2人と冒険広場をよく利用した。小山からの景色・眺めが素晴らしかった。海を見たり平野の向こうに山を見たりできる展望スポットは、子どもだけでなく大人にとってもありがたかった。
●より展望を広げ「見える」ようにするために、気球やヘリコプター・軽飛行機なども利用したらどうか?
●造り方によっては最高の別荘地になる。海は近いし景色はいいし、ここに住みたくなる気持ちもわかる。
●確かにいいところだ。

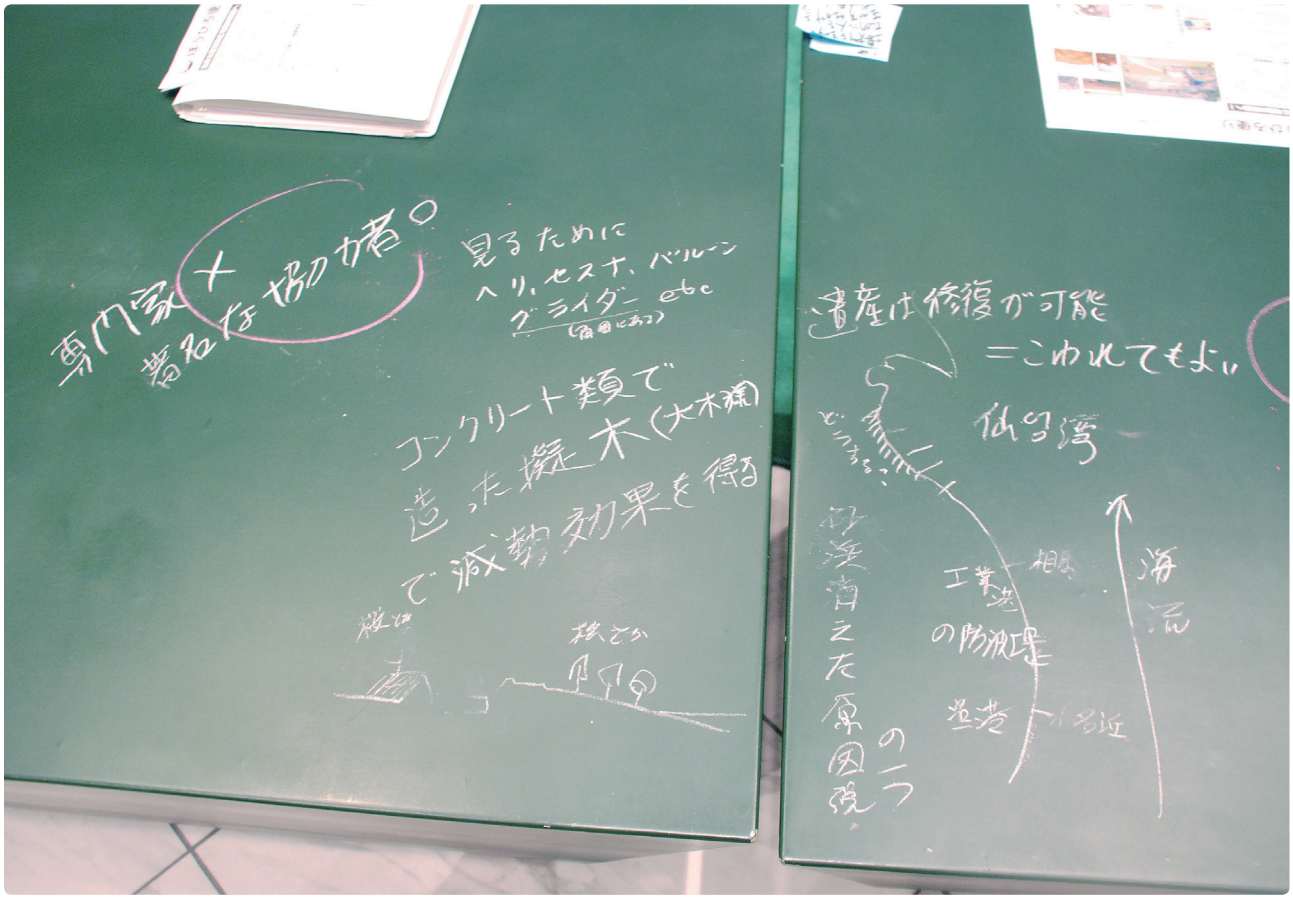
**おわりに:**

**上原啓五氏(いま、貞山運河を考える会/作庭舎)**

この『考えるテーブル』が次にどこに行くのか、ということだが、『考えるテーブル』そのものが地域のことを考え話し合う場であるとの趣旨から言って、意見を集約して直接行政に働きかけるということはないものの、何らかの影響力は持てると思う。
県の「ビジョン」なども、そこに暮らしている住民や市民の意見を求めていることは確かだ。大きい夢とともに小さい行動も両方必要だ。今日出た意見も含めて要約したものはメディアテークホームページなどを通じて公表していきたい。
去年(2011年)の2回に続けて今年(2012年)は5回『考えるテーブル』で話し合ってきたし、それ以前にもいろいろな団体で貞山運河について研究や活動をしてきた。予算が無いので「出版」とはいかないが、ひとつの区切りとしてこれまでの記録をまとめ、これからの貞山運河に関わる地域づくりに役立てていきたい。
震災で被災して貞山運河もどうなることかと思ったが、去年以来7回も話し合いを続ける中でいろいろな意見が出てきた。この様子は県にも伝わり、最初、県はただ被害を修復する程度にしか考えていなかったものが、土木遺産としてどう活用するかも考えるようになった。この集まりの意味も少しはあったのではないか。来年はどうなるかまだわからないところもあるが、いろいろな団体の方々も活動しておられるので、より実行力のある会にしていけたらと思う。



A-ピンク、B-イエロー
C-ブルー


専門家＋
著名な協力者。
見るために
ヘリ、セスナ、バルーン
グライダー etc
コンクリート類で
造った擬木（大木模
で減勢効果を得る
遺産は修復が可能
＝こわれてもよい
低湿帯
海流
工業港
の防波堤
逆港
の一つ

各グループでの話し合いの後、参加者は提案する意見を地図に貼りました。

# 参加者提案意見

高梨哲彦 作成

**1｜総論・方法論**

1　全体ビジョンが大切
2　100年後を見越したビジョンを
3　少しずつ実行する(あるきながら考える)
4　復興する中で大人の果たす役割を見る
5　今の貞山堀を見て歩く(現状を知る)
6　生業を見つめた復興計画

**2｜専門家**

7　世界からプランを頂く
8　“専門家”or“著名な協力者”

**3｜人材**

9　沿岸部の文化・生活を伝える、つなげる人の発掘
10　場所をいかすために人を生かす仕かけが必要

**4｜自然環境**

11　自然保護と復旧復興工事のバランス
12　価値を高=自然環境
13　自然を再生させてほしい
14　自然保護区(蒲生)
15　水質が良くなる方法は?

**5｜海岸林・植林**

16　行政が植林するのは基礎ができてから松枯れに強いもの
17　松林あってこその運河の景観
18　運河沿いに桜並木
19　植林で人が来る
20　まず木を植えて
21　観に来た人・県が植林して

**6｜松籟**

22　松籟
23　「松籟をきく」ことができる姿は残そう

**7｜屋敷林・イグネ**

24　屋敷林を生かし江戸村を
25　イグネをイメージした体験できるエコロジーなくらし方
道の駅(イグネのイメージ)=カルチャースペース
自然の材料を使用して
ホビー (野草)
食(ハーブ・おかし)
糸(おりもの・手芸・あみもの・染物)
26　イグネの住居の中で老人達が子供のしつけと歴史等を伝えていってほしい。
27　イグネ文化

**8｜世界遺産・歴史遺産**

28　世界遺産登録
29　貞山堀を世界歴史遺産へ登録申請する準備会の設立
30　世界災害遺産
31　「みやぎの歴史遺産」第1号に貞山運河を

**9｜景観**

32　景観の良さを生かす:例ぼうひろ
33　すばらし見晴らしを活かすような案内板を
34　小山からの風景よい
35　冒険広場展望台の充実
36　“見る”ために、ヘリ・セスナ・バルーン・グライダーetc (ex角田にある)

**10｜海水浴**

37　海水浴A.B.C
38　荒浜海水浴

**11｜海岸・砂浜**

39　サンドフェスティバル
40　サンドフェスティバル
41　荒浜竜・宮城　乙姫ビーチ
42　砂浜消えた原因? 相馬・小名浜工業港?

**12｜公園・博物館**

43　運河博物館
44　運河博物館
45　運河・干潟の生物触れあい
46　生物博物館
47　荒浜水族館
48　展示場模型つりほり広場をつくる
49　みやぎの歴史遺産 伊達藩治水公苑館
50　「砂板彫刻」公園
51　藤村「汐騒」公園
52　海に龍宮城公園入口を設立する
53　被災住民記憶復活
54　模型をつくる

**13｜観光・交流**

55　09年に若林文化センターで行われた「まるごと貞山堀」というフォーラムで東六郷小学校の皆さんが発表された貞山堀の未来を考える貞山堀の昔から今までを聞かして頂いた時のメモです。
—
展示場(道具・防風林・模型)、図書館、天文台(望遠鏡)、遊園地(釣堀・水族館・広場・ホテル・売店・温泉・ウォータースライダー)、貞山堀砂漠、浄化センター
この発表を聞いた時には、こうなれば良いなあとは思いましたが、仙台の台所を任ずる土地柄としては残念だが、何かの折にはと思いました。震災後の今少しの見込みがあるのでは。
56　小学生の意見(09年)
57　運河ネットワークをつくる
58　「水路の駅」(みちのえき)をつくろう

59 「荒浜被災地復興観光」〜大災害からどのように立上りどのように再生しつつあるか?〜世界の人に見てもらう
60 里海・里：世界の第一人者をゲストにお願いしてテーマをきめていろいろなことをおしえて頂く多目的イベントスペースを作ってほしい。
61 茶屋
62 盛土による高所住宅地造成・貞山堀沿いの船着場・堀サイドカフェ・直売所・ウッドデッキ・漁業用納屋・イグネ・避難施設になるリゾートホテル・民間マンション・復興公営住宅・オフィス・海の見えるレストラン・イナサ公園・菜園・市民農園・周回散歩道
63 園芸センター花めぐり
64 カルチャーセンター設立
65 「若林区東部パーク化構想たたき台」自然エネルギーソーラーパネル・植林・震災モニュメント・レストラン・慰霊の森・産直野菜販売・カヤック・クレイン（馬場）・冒険広場・天望台（美しい星空）・桜並木・フラワーロード・魚釣り・野鳥観察・若林区少年自然の家（東六郷小）・葦原・水島

**14｜舟遊び**

66 「和船」を浮べよう
67 手こぎ舟で水上散歩
68 手漕ぎ舟による舟遊び〜船頭は住民〜
69 ヨットハーバー
70 ヨットハーバー名取
71 荒井・四ツ谷用水利用の水陸両用バス
72 水上バス=観光船の運行!!
73 水上バス
74 水上バス
75 松島島めぐり

**15｜スポーツ**

76 カヌー観光
77 カヌーマラソン（ラリー）
78 ボート世界大会
79 スポーツイベント：トライアスロン・ビーチバレー
80 世界ビーチバレー

**16｜サイクリング**

81 サイクリング
82 サイクリングロード全国から集まる
83 自転車道路サイクリングセンター復活

**17｜イベント**

84 「貞山堀」の写真展を公募

**18｜慰霊**

85 蒲生荒浜井戸浜：亡くなった人の名を3ヶ所に名をきざむ
86 線香・花をささげる所
87 貞山堀に波除観音堂を
88 一本松神社二本松神社三本松神社五本松神社のお守りグウツ
89 3月11日に「松の木神社」祭典を
90 「千代浜松神社」水上安全お符
91 松の木工房でお符・お守りを

**19｜漁業・農業**

92 貞山堀でつり
93 しじみとり
94 野草生産

**20｜生活**

95 10号線居住区になる

**21｜交通**

96 荒井駅から沿岸廻りのるーぷるバスを
97 荒井駅るーぷるバス：キリンビール
98 深沼冒険ひろば井戸浜間に市バス停を
99 東西線の荒浜への延長

**22｜防災**

100 どこからでも退避できる逃げ道
101 「受け流す」という考え方
102 防潮運河
103 津波減スイ魚しょう作り：海水林作りリョウハヘ
104 「防災」仙台平野から海への雨水排水。名取川・七北田川に加えて、荒浜の北に第3の排出口を設置。旧“赤渋堀”の復活を!

せんだいメディアテーク sendai mediatheque 考えるテーブル

# いま、貞山運河を考える

高梨哲彦 作成

****** 参加者提案 ******

●64ページの主な意見を地図にまとめました。

■総論・方法論
- 百年後を見越した全体ビジョンを。
- 復興する中で 大人の役割を考える。
- 少しずつ実行する。歩きながら考える。

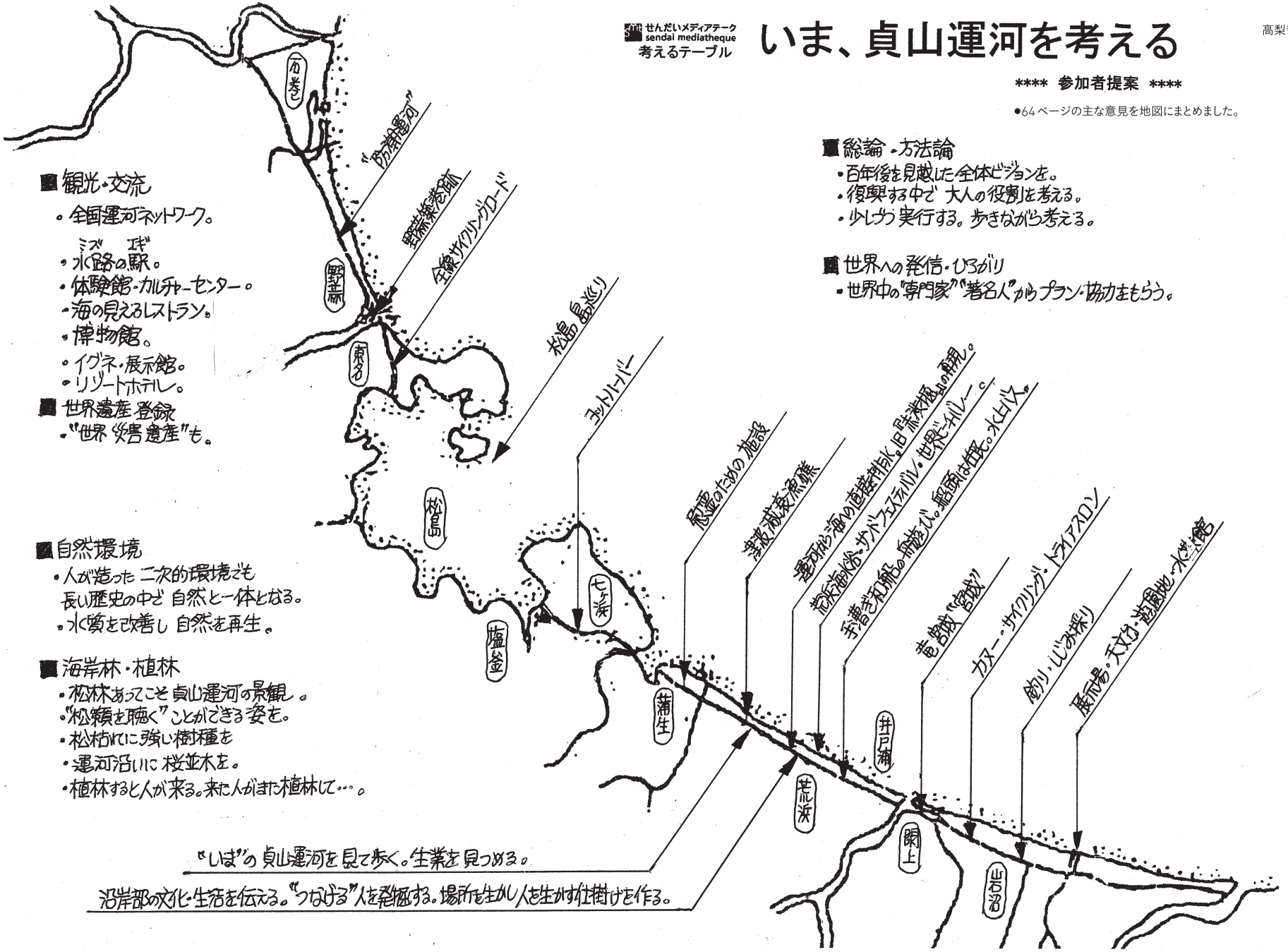
■世界への発信・ひろがり
- 世界中の"専門家""著名人"からプラン・協力をもらう。

■観光・交流
- 全国運河ネットワーク。
- 水路の駅(ミズ ロ エキ)。
- 体験館・カルチャーセンター。
- 海の見えるレストラン。
- 博物館。
- イグネ・展示館。
- リゾートホテル。

■世界遺産登録
- "世界災害遺産"も。

■自然環境
- 人が造った二次的環境でも長い歴史の中で自然と一体となる。
- 水質を改善し自然を再生。

■海岸林・植林
- 松林あってこそ貞山運河の景観。
- "松籟を聴く"ことができる姿を。
- 松枯れに強い樹種を
- 運河沿いに桜並木を。
- 植林すると人が来る。来た人がまた植林して…。



せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

考えるテーブル　いま、貞山運河を考える

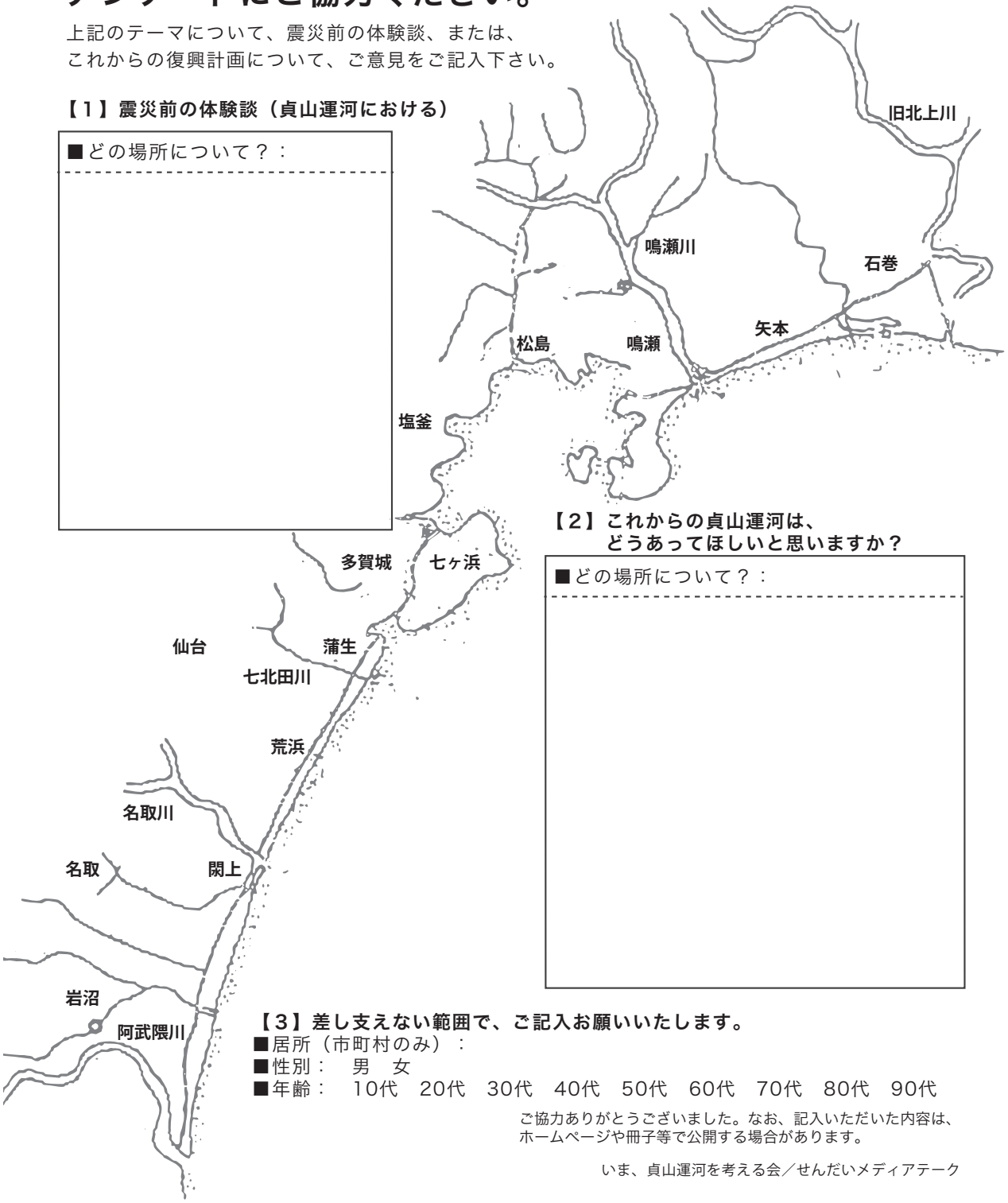
テーマ
# 「貞山運河の遊びと観光」

## アンケートにご協力ください。

上記のテーマについて、震災前の体験談、または、
これからの復興計画について、ご意見をご記入下さい。

**【1】震災前の体験談（貞山運河における）**

■どの場所について？：




**【2】これからの貞山運河は、
どうあってほしいと思いますか？**

■どの場所について？：

**【3】差し支えない範囲で、ご記入お願いいたします。**

■居所（市町村のみ）：
■性別：　男　女
■年齢：　10代　20代　30代　40代　50代　60代　70代　80代　90代

ご協力ありがとうございました。なお、記入いただいた内容は、
ホームページや冊子等で公開する場合があります。

いま、貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク

## 考えるテーブル「いま、貞山運河を考える」アンケートにご協力ください

【1】本日ご参加いただいたイベントのことを何で知りましたか？
**ご覧になったものすべてに**○をつけてください。

1．チラシ（見た場所：　　）
2．ポスター（見た場所：　　）
3．メディアテークのウェブサイト
4．メディアテークのメールニュース
5．ツイッター
6．知り合いや家族から聞いた
7．そのほか（　　）

【2】「いま、貞山運河を考える」について

参加動機や、本日のご感想など

ご協力ありがとうございました。

【3】差し支えない範囲で、ご記入お願いいたします。

■ご所属団体：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

■年齢：　10代　20代　30代　40代　50代　60代　70代　80代　90代

※貞山運河を考える会では、一緒に運営してくれるメンバーを募集しています。
興味がある方は、上原（TEL/ FAX:022-222-0250）までご連絡下さい。

貞山運河を考える会／せんだいメディアテーク　考えるテーブル「いま、貞山運河を考える」
2012．12．19

［**アンケートより**］

**2012年第5回では、前ページに掲載した2種類のアンケートを配布しました。主な質問項目について、得られた回答を紹介します。**

**主な質問項目**

**1** 参加動機や、本日の感想など

**2** 震災前の体験談（貞山運河における）

**3** これからの貞山運河は、どうあってほしいと思いますか？

---

**2** 子どもが小さい頃に冒険広場に行きました。頂上からの風景（東、西）。

**3** 冒険広場（展望台）

［**40代**］

---

**1** 歴史遺産として3年前に現地を歩き調査をした。観光に利用できる構想を得て、県・JRの共催「DCキャンペーン」に利用したらと考えた。震災後の状況と、活動の情報はなく、今回、河北新報でこの考える集いを知り参加した。関係する国・県・各市町村のPR不足といたく考える。

［**70代**］

---

**1** テーマについての会合に参加するのははじめてです。会社人生から地域人生への「とっかかり」をさがしているところです。いろいろなものに興味をもっていきたい。今後勉強に行きたい。貞山運河や閖上には数回行ったことがある。あのような風景が好きです。まだ海がこわい。

**3** 市内から行って「ほっ」とするところ。

［**60代**］

---

**1** 貞山運河の全体像を知り、歴史的な経過を知りたい。

**2** 福田町在住の頃、サイクリングロードを利用。

**3** 運河沿いに、植林とサイクリングロードを貫通させ、全国のサイクリストたちを誘致、また、船を運航させる。

［**年代不明**］

---

**1** ずいぶん世話になったし早く回復してほしい。何か今後の復興計画がわかるのかも。
対行政等、表現方法、知識が欠けているのが残念。

**2** 七北田川河口から名取川河口で約20年、春から秋に山菜、キノコ、魚釣り。

**3** 前の（海岸）線を早く戻してほしい。松林主体で。工事中で相当地ならしされ無くなったが、想像以上の実生の松が出ています。この利用（を考えたい）。現在立入禁止の連続ですが。

［**80代**］

---

**1** 10歳くらいから釣りで歩いたので、この先、貞山運河がどうなるか、気になったので参加した。
県・国の青写真が固まらないままでは、植林するにも場所が決まらないと思う。第6回も参加したい。

**2** 昭和30年代後半頃、荒浜あたりで小魚釣りに、家族で通った。ハゼやフナが釣れた。

**3** 「水質の向上」水遊びができるくらいまで、きれいになってほしい。

［**60代**］

---

**1** 参加動機：前からその存在自体に心ひかれるものがあった。
本日の感想：語っても語っても、語り尽くせない感がある。土木遺産というよりは、むしろ精神の遺産である。「受け流す」という考え方。水路――これを「水路（みち）」と読もう。「松籟をきく」ということがなくなった姿は考えられるか。

**2** 閖上の魚と荒浜の暮らしぶりを堪能したことがある。

**3** まずは、全般に元の姿にする。これからは、それを見て（復旧・完成してから）一休みして考えよう。

［**60代**］

---

**1** 今回は遅れたため席に座れなかったので、話し合いには参加できませんでした。荒浜や貞山を利用している人たちは、場所としての貞山運河を考えているように思った。もっと、歴史などをまぜた複合的な観光を行うべきではないだろうか。環境に目を向けすぎると、どうなるのか、それを考えること、市民への周知などがいるのかもしれない。

［**20代**］

---

**1** 毎回参加しています。蒲生、貞山運河、荒浜は、子どもの頃から70年慣れ親しんできた地域で一軒一軒の店を覚えています。あの日(3.11)は、前年(2011年)までの恒例行事として、貞山運河を見おろす「海岸公園冒険広場」での、主に東六郷小、荒浜小の子を対象とした「砂絵での文字彫り遊び」の打合せのため、事務所を訪れたく、仙台駅から深沼海岸行きバス停へ急いだのですが、二秒ほどで乗り遅れ、そのすぐ後に来た緑が丘行きのバスで仕事場へと予定を変えました。もし、深沼行きのバスに乗ったら、あの時間、ひとりで貞山堀の松林を30分ほど歩き冒険広場へと急いでたので、バスに乗り遅れて命拾いし、今年(2012年)、満80歳まで生きのびることができました。

**3** 貞山堀、太平洋を見渡す、冒険広場の高台にある展望台、時計塔プレイハウスを中心に、市内の小中校生を対象にした「防災訓練の場としての防災公園」を提案します。また、貞山堀は、日本最古最長の人工運河で仙台藩の歴史遺産で「県民が営んだ、みやぎの歴史遺産」として、「蒲生の水鳥公園」と併せて宮城県立公園とすべきと、考えます。
野蒜築港跡、品井沼〜高城の明治潜水トンネル等、明治の産業遺産を、県政だより等で県民へ伝えたら……と思います。
荒井駅を中心に「東部沿岸るーぷるバス」を、仙台市で……。
四ツ谷用水利用の「水陸両用バス」で。
「砂浜美術展」の開催。
荒浜ビーチバレー大会。

[**80代**]

---

**1** 『考えるテーブル』とは何だろう？というのが参加の動機。途中参加ですが、参加者がアツイ！ あっという間の2時間でした。また参加したい。

**2** 閖上：スポーツを楽しんだ。貝殻ひろい。
蒲生：自然観察、生きもの遊び、カニ・ゴカイ・カラスガイ・イガイの思い出。

**3** すべての場所で安全と人工、自然、生き物バランスのとれた魅力的な地域になってほしい。

[**40代**]

---

**1** 考える会の内容を知りたかった。参加者の方々の熱意が伝わっておりました。参加者の年齢がもう少し幅があったらと思います。

[**60代**]

---

**1** 生物の多様性の保護。人間も生物であります。水辺は危険もありますが生活、スポーツ、観光、保養等、産業の拠点であります。すでに塩竈地区、名取市地区は着手しておりましたが、今回の津波で白紙になりました。初代宮城県知事が松島を歴史に残るエリアとして観光地に仕上げ、100年後の我々が活用しているように、阿武隈〜岩沼〜名取〜仙台〜七ヶ浜〜塩竈〜多賀城〜松島にかけて、このあと100年後にも使われる拠点構築を長期計画で進めたく参加させていただきました。

**3** 蒲生、七北田川河口：自然保護地区
荒浜〜閖上：観光、スポーツ、教育、荒浜の再生。

[**60代**]

---

# 参考資料


[書籍]

土木学会編(1936)『明治以前日本土木史』岩波書店

遠藤剛人(1967)『貞山運河成立史考 宮城県河川技術資料第49号』宮城県土木部河川課

宮城県教育委員会編(1976)『宮城県文化財調査報告書(第43集)』宮城県教育委員会

岡崎一郎(1977)『閖上風土記』小野晋平

河北新報社編(1982)『宮城県百科事典』河北新報社

今西祐行・斎藤博之(1986)『運河――物語・川村孫兵衛重吉伝』偕成社

遠藤剛人(1989)『貞山・北上運河沿革考』仙台月急山叢舎

司馬遼太郎(1985)『街道をゆく 26――嵯峨散歩・仙台・石巻』朝日新聞社

七郷の今昔を記録する会、タス・デザイン室(1993)『ふるさと七郷 もう一つの仙台』タス・デザイン室

若林水紀行編集委員会編(1992)『若林水紀行』仙台市若林区

佐伯一麦(1999)『川筋物語』(朝日新聞社)

佐佐木邦子(2002)『宮城集治監』中央公論事業出版

ゆりあげざっこ写友会編集委員会(2004)『むかしの写真集 閖上』ゆりあげざっこ写友会

三浦敏成(2007)『荒浜(深沼)――昭和二十年代からのメッセージ』創文印刷出版

谷澤直人(2009)『朝風にオールをとりて 明治期の旧制第二高等学校尚志会端艇部』東北大学出版会

仙台市文化財課(2010)『貞山堀調査報告書――七北田川築堤護岸工事に伴う測量調査報告書――』仙台市教育委員会

貞山運河の魅力再発見協議会(2013)『貞山運河の利活用指針』

及川俊・西岡徹(2011)『貞山運河～運河復活への指針～』東北大学卒業論文

[ウェブサイト]

『貞山運河事典』http://www.teizanunga.com/Pages/default.aspx

[テレビ]

『NHKハイビジョンスペシャル「イナサ」～半農半漁の海辺の集落・仙台市荒浜～』(2006)


●宮城縣史、仙台市史ほか各市町史などに関連項目の記載がある。

いま、貞山運河を考える会編

## 貞山運河関連団体一覧

**1**:貞山運河の魅力再発見協議会
貞山運河をコミュニティの中核として再認識し、地域が連携を図り、産業振興等の観点から活用するための方策を立案し、地域経済等に貢献することを目的とする団体です。『貞山運河の利活用指針』を発行しました。
2012年第3回で話題提供していただきました。

**2**:まち遺産ネット仙台
仙台旧市街地周辺において、失われつつある歴史的建造物・庭園・樹木などの有形遺産、技術・伝承といった無形遺産について、市民協働によって情報収集を行い、活用・保存・再生の道を探ることを目的とする団体です。2012年第4回で、代表の西大立目祥子氏に、荒浜周辺の昔の暮らしと水について話題提供していただきました。

**3**:荒浜再生を願う会
津波の被害を受けた荒浜地区で現地再建を目指す有志の会です。2012年第4回で話題提供していただきました。

**4**:NPO法人冒険あそび場── せんだい・みやぎネットワーク
貞山運河の隣にある仙台市若林区の海岸公園冒険広場(休園中)を指定管理している団体です。2012年第5回の会で話題提供していただきました。

**5**:公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)水部会
水源保全や水辺に関する学習会や観察会を行っている団体です。

**6**:名取ハマボウフウの会
ハマボウフウをはじめとする海浜植物が群生する、美しく健康な海岸の復元を目指している団体です。

**7**:NPO法人都市デザインワークス
貞山運河の周りにある地域の復興計画づくりに携わっているまちづくりのNPO法人です。

**8**:仙台市環境webサイト たまきさん
環境に関わる情報発信をしているウェブサイトです。当会も取材していただき、イベントの様子がウェブに掲載されました。

**9**:宮城県土木部河川課
貞山運河の法律的な保守管理責任者です。『貞山運河再生・復興ビジョン』づくりに取り組んでいます。

**上原啓五**

公園緑地の専門家として公園や緑地の設計に関わってきた中でいつも考えることは、「今回の震災をどのように復興するのか？」「どんな計画ができるのか？」ということでした。世界中の建設に関わる専門家たちも今回の復興計画に注目していると思います。日本の土木建設の技術は世界のトップクラスにあると思いますが、建設の三要素「用・強・美のなかで日本では「美に関する部分が弱く、大変気になっています。特に復興後の景観はどうなるのか？ おそらく重要度の順番は変わらないでしょう。災害復旧工事は常に現状復帰のため、元の状態に戻すのが国の方針でその予算はつきやすいのが通常です。

しかし今回は想定外の災害です。復旧だけですむ問題ではありません。家も土地もすべてが流され、一からの出発になります。被災した地域は広大で特に県内の海岸線はどうなるのか大変気になりました。地図をよくみると被災地の海岸線に政宗公が造り始めた貞山運河群が軸線のようにあります。この運河を中心に復興計画を、単なる復旧ではない、新たな価値を生み出す復興計画をと思いました。世界に誇れる復興計画をつくるためには、市民の声を真摯に聞き、さまざまなアイデアを取り入れて実現する必要があります。

『考えるテーブル』で話し合ったことはすばらしい提案だと思っています。私はいろいろな方法で実現したいと考えております。

**黒田清志**

「**貞山運河 4度目の感動**」

1度目：貞山運河を美しいと思ったのは、30年ほど前の初夏、自転車で海を見に行ったときです。南蒲生から南に下るルートの途中で降り、竹を求めて辺りを徘徊すると、人気のない海と砂浜・防潮林・笹竹の茂みのそばに、緩やかな流れの小さな運河が昼下がりの太陽の下に光っていました。穏やかで茫漠とした海と緩い流れの古びた小さな運河、細い自転車道という自然と人工の組み合わせに、ジョルジョ・デ・キリコの絵のような不思議な美しさを感じました。

2度目：司馬遼太郎氏は『街道をゆく(26) 嵯峨散歩、仙台・石巻』(朝日新聞社、1990年)の中で、仙台空港から、直接貞山運河を訪れ、その美しさと静かな佇まいに深くこころ動かされたことを記しています。この文を読んで、夕暮れに佇む運河を想い浮かべ、あらためて郷土の遺跡に誇りをいだきました。

3度目：『貞山運河を考える会』の事務局で、今回の会議を総括する『貞山運河レポート』をつくることになり、みんなで手分けして資料にあたることになりました。遠藤剛人氏の『貞山・北上運河沿革考』(仙台月急山叢舎、1989年)に、貞山運河と川や関連施設との関係を分かりやすく描いた「関係図・概念図」がありました。これを参考にして自分で『貞山運河概念図』を描いてみました。曖昧だった地域の沿岸部と河川・水脈の位置関係がようやくつかめました。今更ながら、先人の偉大な構想力と粘り強い実行力に感嘆しました。

4度目の感動はまだしていません。これは、貞山運河の開削を直接行った当時の下級武士・庶民等の実際の労苦と喜びを知った時ではないかと思っています。願わくは、エジプトのピラミッド建設が農閑期の王国の失業対策事業であったように(一説)、運河開削が奴隷のような苦役でなく、誇りを持って参加した地域開発であったことを祈るものです。

**高梨哲彦**

仙台市若林区荒浜、貞山堀の近くに住んでいました。地元の人たちは温かな親しみを込めて「テイザンボリと呼んでいました。先祖代々のみなさんが多い中で私は住歴20年の新参者でしたが、子どもたちと一緒にハゼ釣りやカレイ釣り灯籠流しなどで楽しませてもらいました。運河に繋がれていたたくさんの舟も憧れの的で、いずれは優雅に舟遊びも……、なんて思っている矢先の津波でした。

私の専門の土木や下水道等の側面からは、「仙台平野の雨水排水」という貞山運河の大事な役割が見えます。名取川と七北田川2か所からの排水だけでは不十分なことを震災前に何度も経験してきたのですが、今回の津波で荒浜集落の北側に奇しくも出現した、貞山運河から海に直接繋がる水路が、明治以前に「赤渋堀と呼ばれていた自然河川であったことを知りました。豪雨や津波に対する防災上の観点からも、ぜひその再現を願う次第です。

**廣重朋子**

私自身は、貞山運河に関する知識はほとんどありませんでした。

今回、この会に関わるようになり、参加されたみなさんのお話を聞くことで貞山運河についての知識だけではなく、どれだけ貞山運河が地域の方々に親しまれてきたか、思い出深い場所だったのか、そして誇りを持っていたのかを感じました。

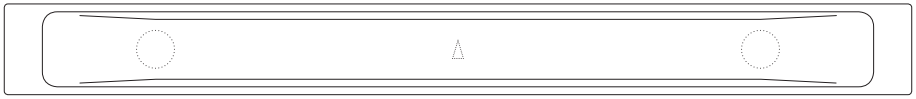
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)では約5年前から、『水の神さまプロジェクト』という水にまつわる地域の文化を掘り起こす活動を行なっています。川や海や運河、水のあるところに人は集まり、その恩恵を受け、癒される。それは昔も今も変わることなく続いていくものだと思います。

これから貞山運河を考えることは、その地域の人々の暮らしを考えることと同じ。震災で受けた被害は甚大なものでしたが、これからも水とともに生きられる環境を大切にしていきたいと感じています。

いま、貞山運河を考える会

上原啓五
黒田清志
高梨哲彦
廣重朋子

貞山運河レポート
── 2011・2012 いま、貞山運河を考える会 全記録

2013年9月7日発行

編者：上原啓五
編集・発行：いま、貞山運河を考える会
Tel&Fax: 022-222-0250（代表 上原啓五）
編集協力：高橋創一
デザイン：松井健太郎
協働：せんだいメディアテーク